

令和3年(2021年)度

修士論文

表紙絵による子どもと大人の絵本選択の差異
—異なる印象をもつ四種類の絵本を用いた調査を通して—

指導教員 西本 望教授

武庫川女子大学大学院
文学研究科教育学専攻

学籍番号 2031981

氏名 瀧野 揚子

表紙絵による子どもと大人の絵本選択の差異
—異なる印象をもつ四種類の絵本を用いた調査を通して—

武庫川女子大学大学院文学研究科教育学専攻

2031981 瀧野 揚子

要旨

1. 問題の所在と研究目的

絵本は時代のニーズに沿って、その要請を包含して変遷している。変容箇所は絵本の物語内容に限らず、絵や言葉の表現形態も含んでいる。古くから語り継がれてきた昔話やグリム、ペロウの童話などにおいては、物語の大筋となる部分は残しつつ、残酷な場面や時代にそぐわない表現を省いたり、異なる表現へと変更したりすることは珍しくない。

絵においては、数十年前に発行された絵本を物語内容はそのままに、その時代に流行している絵のスタイルで描き、発行していることも数多く見受けられる。中澤ら（2005）や若山ら（2011）は絵本の挿絵について、同様の物語内容で異なる印象の挿絵を用いた絵本に着目している¹²。最近では、幼い頃に読んでいた絵本や児童書の絵柄ががらりと変わり、親しみをもっていった絵本に違和感を覚えた

というような声も聞かれる。このような事例から、現代の子どもの好みに合わせてリメイクされた絵本の絵柄に、子どもと大人がどのように感じているか、また絵柄の変化によってその絵本に対する印象に差異は生じるかについて関心をもった。

そもそも絵本を選ぶ上で、まず初めに判断する要素として絵本の表紙が挙げられる。絵本を手に取り表紙を眺めて「この絵本を読みたい」と思う、自身の感性に触れる絵本との出会いがそこにはある。特に識字能力が十分でない子どもにとって、視覚情報として初めに目に入ってくる絵本の表紙は大人以上に重要な選択の材料となるに違いない。

そこで、本研究においては視覚的な情報としての絵の違いが絵本選択に影響を及ぼすか、さらに、子どもと大人では好みに差異が生じるかについて明確にすることを目的とする。

¹ 中澤潤・中道圭人・大澤紀代子・針谷洋美「絵本の絵が幼児の物語理解・想像力に及ぼす影響」,千葉大学教育学部研究紀要(53),2005,pp.193-202.

² 若山育代・表裕未「絵本の挿絵が4歳児の共感性に

及ぼす影響—印象の異なる2種類の絵本を用いた読みきかせによる検討」,富山大学人間発達科学部紀要 6(1),2011,pp.91-97.

本論文は、6 章構成としている。

第 1 章には、本研究における問題の所在と本研究の目的を示した。

第 2 章には、絵本に関する研究動向を探り、絵本が読み手に与える影響に着目した研究および絵本の選択に注目した研究について概要を示した。

第 3 章には、絵本および絵本の絵の役割について記述している。

第 4 章には、絵本の絵に関する大学生の意識調査について、概要と結果および考察を記している。

第 5 章には、絵本における子どもと大人の嗜好の違いに関する調査について、概要と結果および考察を記している。

第 6 章には、まとめおよび今後の課題・展望について記述している。

2. 調査方法

I 大学生を対象としたアンケート調査 (調査 1)

方法

(1)調査期間

2021 年 7 月 11 日～2021 年 7 月 31 日

(2)調査協力者

武庫川女子大学教育学部教育学科第 2 学年及び第 3 学年、文学部教育学科第 4 学年
(回収数 277 部)

(3)調査資料

表紙の印象が異なる四種類の『シンデレラ』を取り上げた。絵本①は「平田昭

吾 (文)、羽根章悦 (絵)、ポプラ社」、絵本②は「梯子有子 (文)、上北ふたご (絵)、河出書房新社」、絵本③は「バーバラ・マクリントック (再話、絵)、福本友美子 (訳)、岩波書店」、絵本④は「グリム兄弟 (作)、サラ・ギブ (絵)、角野英子 (訳)、文化出版局」であった。

(4)手続き

『シンデレラ』絵本四種の表紙に対して、SD 法を用いてイメージを評定させるため、大学生を対象にアンケート調査をおこなった。質問紙の項目内容については、井上・小林 (1985)、若山・表 (2011) の形容詞対を参考に表 3 の 27 対を用いている。回答については、「非常にあてはまる」「ややあてはまる」「どちらでもない」「ややあてはまる」「非常にあてはまる」の 5 件法で評定させた。

(5)倫理的配慮

調査への協力は、調査協力者の自由意思であり、その同意の諾否にかかわらず、何ら不利益を被ることはないこと、さらに、得られた情報は本研究とその報告の目的で利用することを記載し、調査協力者の理解を求めた。回答の記載があった調査用紙を承諾を得たものとした。調査用紙については、調査協力者が特定されないよう、無記名での回答とした。回収した質問紙は集計の処理をした後、

封をした箱に入れ、鍵のかかる部屋で厳重に保管している。

結果及び考察

因子分析の結果、5 因子が抽出された。第 1 因子は、「活発な - 落ち着いた」「騒がしい - ものしずかな」「動的 - 静的」「新しい - 古い」「陽気な - 陰気な」の 5 項目からなり、第 1 因子「活動性」と名付けた。第 2 因子は、「親しみやすい - 親しみにくい」「やさしい - おそろしい」「あたたかい - つめたい」「むずかしい - わかりやすい」「複雑な - 単純な」「穏やかな - 荒々しい」「明るい - 暗い」「かわいらしい - にくらしい」「快い - 不快」の 9 項目からなり、第 2 因子「明るさ」と名付けた。第 3 因子は、「大人っぽい - 子どもっぽい」「現実的な - 非現実的な」「くどい - あっさりした」「派手な - 地味な」「濃い - 薄い」の 5 項目からなり、第 3 因子「現実味」と名付けた。第 4 因子は、「きれい - きたない」「美しい - みにくい」「華やか - わびしい」の 3 項目からなり、第 4 因子「美しさ」と名付けた。第 5 因子は、「重厚な - 軽薄な」「力強い - 弱々しい」「深みのある - うわべだけ」「迫力のある - ものたりない」「はっきりした - 不明瞭な」の 5 項目からなり、第 5 因子「力強さ」と名付けた（図 1 参照）。

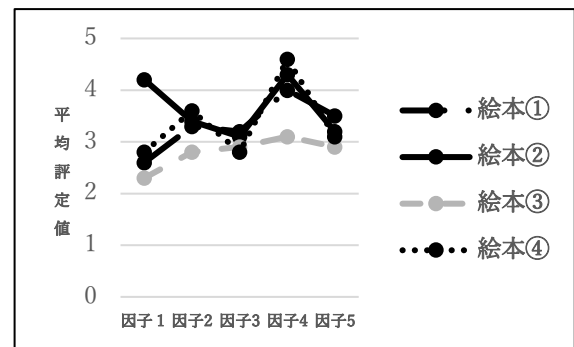


図 1 各因子得点の平均評定値

Ⅱ 絵本における子どもと大人の嗜好の違いに関する調査（調査 2）

方法

(1)調査期間

2021 年 9 月 1 日～2021 年 9 月 31 日

(2)調査協力者

武庫川女子大学附属幼稚園に通っている 5 歳児 30 名とその保護者（代表者一名）25 名

(3)調査資料

調査 1 で使用した四種類の絵本

(4)手続き

・子どもを対象とした調査について

個別面接法で調査した。質問方法については調査協力者の年齢を考慮し、サー斯顿法を用いた。刺激は前章で使った四種類の絵本の表紙を拡大コピーし、パネルにしたものを使用した。なお、四つの絵本の表紙の提示する順序は選択への影響を少なくするよう、ランダムとした。

・大人を対象とした調査について

質問紙を用いたアンケート調査で行った。質問方法については、子どもを対象とした調査と対応させるため、シェッフェ法を用いた。四種類の表紙を提示し、5段階で評価した。質問項目の内容は以下のとおりである。

「保護者自身が読みたいと思うもの」

「子どもが読みそうなもの」

「子どもに読んでほしいもの」

絵本について二つ質問した。

「子どもにどのような絵本を読ませたいか」

「子どもが興味をもっている絵本は何か」

保護者（回答者）の年齢、性別、子どもの数・年齢・性別

(5)倫理的配慮

調査への協力は調査協力者の自由意思であり、その同意の諾否にかかわらず、何ら不利益を被ることはないこと、さらに、得られた情報は本研究とその報告の目的で利用することを記載し、調査協力者の理解を求め、承諾を得た。調査については、事前に子どもおよびその保護者それぞれの調査の参加に関する同意書を、調査の参加、不参加にかかわらず提出してもらった。

また本調査では、可能な限り子どもとその保護者を結びつけて分析を行うこと

を目的としているため、調査時には子ども及びその保護者の氏名または一部の個人情報をも明記する必要がある。そのため、書面にて保護者の同意を得、さらに研究の報告・公表については個人情報を匿名加工することによって、調査協力者が特定されないようにした。

結果及び考察

i 子どもが読みたい絵本については、絵本②、絵本④、絵本①、絵本③の順となっている。

ii 「大人が読みたい」絵本については、絵本④、絵本①、絵本③、絵本②の順となっている。

iii 「子どもが選びそう」な絵本については、絵本②、絵本①、絵本④、絵本③の順となっている。

iv 「子どもに読ませたい」絵本については、絵本④、絵本①、絵本②、絵本③の順となっている。

v 親子間での選択の比較については、本文参照とする。

結果、子どもが「読みたい」と思う絵本と大人が「読みたい」絵本、「子どもに読んでほしい」絵本には大きな差異が生じていることが明らかになった。特に絵本②については、子どもからの選択が多い一方で、大人にとってはそれほど選択される傾向にないことが明らかとなった。

今後の課題

子どもが「読みたい」と思いまず目に入るのは表紙である。表紙の絵に対する視覚的な選好、そしてその選好における大人との差異を検討したという点で本研究は今後の研究にとって有益なものであったと思われる。

研究方法の課題として、3点挙げられる。一つ目に、調査における刺激についてである。今回の調査では表紙絵の印象が異なるものが多くあり、子どもにも馴染みのある絵本として『シンデレラ』を題材とした。しかし、何人かの（特に）男児にとってはあまり親しみがあるものではなかったようである。『シンデレラ』は女児向けのもの、かわいいものは女の子のもの、という意識からか、回答を渋る様子も見られた。このことから、より男女ともに受け入れられる絵本題材を採用することを検討していく必要がある。二つ目に、データ数が少ないことである。子どもとその保護者の回答を対応させ、傾向を見るには、より多くのデータが必要となる。そして三つ目に、調査の方法についてである。本調査の絵本選択の方法は、実際の保育や家庭の現場で行われるような絵本選びの環境とは異なっていた。そのため、図書館や保育現場など、実際の絵本選びの場面において観察調査をおこなうことで、より子どもと大人の生の

姿を見ることができると推察する。

文献

中澤潤・中道圭人・大澤紀代子・針谷洋美「絵本の絵が幼児の物語理解・想像力に及ぼす影響」,千葉大学教育学部研究紀要(53),2005,pp.193-202.

若山育代・表裕未「絵本の挿絵が4歳児の共感性に及ぼす影響—印象の異なる2種類の絵本を用いた読みきかせによる検討」,富山大学人間発達科学部紀要6(1),2011,pp.91-97.

目次

| | |
|------------------------------------|--------|
| 第一章 問題の所在と研究目的 | - 1 - |
| 第二章 絵本に関する研究動向 | - 3 - |
| 第一節 絵本の絵が読み手に与える影響 | - 3 - |
| 第二節 絵本選択に関する研究 | - 6 - |
| 第三章 絵本における絵の意味 | - 9 - |
| 第一節 絵本とは | - 9 - |
| 第二節 絵本の絵 | - 12 - |
| 第三節 絵本と漫画の違い | - 14 - |
| 第四章 絵本の絵に関する大学生の意識調査 | - 15 - |
| 第一節 調査の概要 | - 15 - |
| 第二節 結果と考察 | - 22 - |
| 第五章 絵本における子どもと大人の嗜好の違いに関する調査 | - 28 - |
| 第一節 調査の概要 | - 28 - |
| 第二節 結果と考察 | - 31 - |
| 第六章 まとめ・今後の課題と展望 | - 43 - |
| 引用・参考文献一覧 | - 45 - |
| 謝辞 | - 48 - |
| 付録資料 | |

第一章 問題の所在と研究目的

絵本はその時代のニーズに沿って、その要請を包含して変遷している。絵本の変容は物語内容に限らず、絵や言葉の表現形態も含んでいる。古くから語り継がれてきた昔話やグリム、ペローの童話などにおいては、物語の大筋となる部分は残しつつ、残酷な場面や時代にそぐわない表現を省いたり、異なる表現へと変更したりすることは珍しくない。小山（2015）は『かちかち山』の絵本を例に挙げ、使用されている言葉が現代で伝わらない表現のものがあ、保育者の絵本選択や伝え方の重要性を説いている³。

さらに、絵においても同様に、数十年前に発行された絵本を物語内容はそのままに、その時代に流行している絵のスタイルで描き、発行していることも数多く見受けられる。中澤ら（2005）や若山ら（2011）は絵本の挿絵について、同様の物語内容で異なる印象の挿絵を用いた絵本に着目している⁴⁵。最近では、幼い頃に読んでいた絵本や児童書の絵柄ががらりと変わり、親しみをもっていた絵本に違和感を覚えたというような声も聞かれる。このような事例から、現代の子どもの好みに合わせてリメイクされた絵本の絵柄に、子どもと大人がどのように感じているか、また絵柄の変化によってその絵本に対する印象に差異は生じるかについて関心をもった。

そもそも絵本を選ぶ上で、初めに判断する要素として絵本の表紙が挙げられる。絵本を手に取り表紙を眺めて「この絵本を読みたい」と思う、自身の感性に触れる絵本との出会いがそこにはある。特に識字能力が十分でない子どもにとって、視覚情報として初めに目に入ってくる絵本の表紙は大人以上に重要な選択の材料となるに違いない。

上記に挙げたように、絵本の物語内容や絵の表現法の違いに着目する研究が多く見受けられる中で、子どもと大人の好みの差異を比較検討する研究はあまりない。そこで、本

³ 小山祥子「昔話絵本の再話と描画に関する比較研究―「かちかちやま」の場合―」,駒沢女子短期大学研究紀要(48),2015,pp.9-18.

⁴ 中澤潤・中道圭人・大澤紀代子・針谷洋美「絵本の絵が幼児の物語理解・想像力に及ぼす影響」,千葉大学教育学部研究紀要(53),2005,pp.193-202.

⁵ 若山育代・表裕未「絵本の挿絵が4歳児の共感性に及ぼす影響―印象の異なる2種類の絵本を用いた読みきかせによる検討」,富山大学人間発達科学部紀要6(1),2011,pp.91-97.

研究においては視覚的な情報としての絵の違いが絵本選択に影響を及ぼすか、さらに、子どもと大人では好みに差異が生じるかについて明確にすることを目的とする。

これらの問題を明らかにすることで、子どもが絵本により親しみを覚え、自身の好みに合った絵本に出会える機会を増やすことができると推察する。

第二章 絵本に関する研究動向

第一節 絵本の絵が読み手に与える影響

絵本の挿絵が与える子どもの発達への影響について、次のような研究がおこなわれている。

中澤ら（2005）は、絵本の挿絵が子どもの物語理解や想像力に及ぼす影響について検討した⁶。予備実験においては 5 歳児の絵の選好を調査し、子どもたちがかわいいイメージの絵⁷を好む傾向にあることを示した。第 1 実験では絵の表現形式が 5 歳児の物語理解や想像力に及ぼす影響を検討し、かわいいイメージの絵は子どもの想像力を抑制することを示した。続く第 2 実験では、絵の表現形式と子どもの絵の好みとが 5 歳児の物語理解や想像力に及ぼす影響について検討し、絵の表現形式と子どもの好みはどちらも物語理解に影響しないこと、子どもの想像力が子どもの好みに関係なくかわいいイメージの絵によって抑制されることを示した。その結果、かわいいイメージの絵とそうでない絵とを比較すると、子どもの好みに関係なく、かわいいイメージの絵によって想像力が抑制されていることを明らかにしている。

若山・表（2011）は、4 歳児を対象に絵本の挿絵が共感性に及ぼす影響について検討した⁸。調査 1 において挿絵の印象が異なる二種類（アニメーション⁹風と写実風の挿絵）の『オオカミと七匹の子ヤギ』絵本を選定し、調査 2 では二つの絵本を読み聞かせ、その間の対象児の発話を分析の対象とした。分析の結果、「4 歳児が絵本の内容を深く理解できるのは挿絵の現実性が高く、明るさや派手さ、単純さが低い写実風絵本であること」（原文ママ）を示し、そうした特徴をもった写実風絵本は 4 歳児の共感性を育むものであると推測している。一方で、アニメ風絵本は子ども同士で絵本の内容について問いかけるなどの行動が多いことから、子ども間のコミュニケーションを促進する効果があることを

⁶ 中澤・中道・大澤・針谷, 前掲論文。

⁷ 中澤は「かわいいイメージの絵」とは、幼児が好む、「登場人物がかわいく、漫画的、色調は明るく、メルヘンなイメージの絵」のこととしている。

⁸ 若山・表, 前掲論文。

⁹ 以下アニメとする。

推察している。

藪中（2012）は、昔話絵本『ももたろう』の絵に注目し、視覚的情報としての絵の違いが、子どもの物語理解および作話に及ぼす影響について検討した¹⁰。①写實的に詳細に描かれ、色調は落ち着いた本物に近い色使いをしている絵の絵本（復刻版絵本条件）と、②アニメやマンガ調で抽象的に描かれ、色調は原色を多く使っている絵の絵本（マンガ版絵本条件）の2種類を提示し、5歳児を対象に理解課題と作話課題を実施した。理解課題については、復刻版絵本条件の方がマンガ版絵本条件より子どもの「事実」や「感想」の発話が有意に多く、作話課題については復刻版絵本条件の方がマンガ版絵本条件よりもエピソード数、内容語の表出が有意に多いことが示された。これらのことから、詳細で写實的な絵の方が子ども（5歳児）のことばを引き出し、想像力を促進させることが明らかになった。一方で、線や形を中心とした抽象的な絵からは子どもの発話があまり引き出せず、登場人物に対するイメージもあまり広がらなかったことから、子どもの想像力の妨げになった可能性があるとして示された。

以上のように、絵本の絵の違いが子どもに及ぼす影響については、多くの研究においてアニメ・マンガ風の絵よりも写實的な絵の方が、子どもの「考える力」を促進させるということを示している

さらに、絵本の絵に関して着目している研究では、同様の物語で複数の絵本を取り上げ、各絵本によっての語り口調などの内容面と共に描画の表現について検討しているものもある。

小山（2015）は、昔話で知られる『かちかち山』の絵本について、再話と描画に関する比較研究を行っている¹¹。『かちかちやま』の昔話絵本を十冊取り上げ、各絵本の特徴について再話の内容、描画表現を分析している。その上で、昔話絵本では現代生活の中では見聞きしないような言葉表現があること、また、そうした言い回しや表現をわかりやすく柔軟に伝えていくために、視覚的な情報としての絵がイメージを同一化し継承していくことが必要であることを述べている。つまり、特に昔話絵本における絵は、物語を伝えるという点において、イメージ形成に大きく影響する重要な役割があるとしている。

¹⁰ 藪中征代「昔話絵本の絵が幼児の理解および作話に及ぼす影響」聖徳大学研究紀要 聖徳大学(23) 聖徳大学短期大学部(45),2012,pp.1-8.

¹¹ 小山,前掲論文.

児童文学評論家の赤木かん子（2018）¹²¹³は児童書の「萌え絵」論争¹⁴に関して、「子どもに悪影響」という声に反論している。感覚が鈍ってしまった大人と違い、若い世代は時代に沿った絵とそうでない絵の区別はついており、少なくとも絵本や児童書で使用されるようなイラストは「萌え絵」と呼ばれるようなものではない、と述べている。それを踏まえた上で、大人の古いセンスで絵本や児童書を押し付けるのではなく、好きな絵本を選ばせることにより、「いい器」を作る基盤を作っていかなければならないと唱えている。

¹² excite ニュース（2018）芸能 芸能総合「絵本・児童書の“萌え絵”論争——「子どもに悪影響」の声に、児童文学評論家が反論」より

¹³ 赤木かん子 児童文学評論家。法政大学英文学科卒業。子どもの頃に読んでタイトルや作者を忘れてしまった本を探し出す「本の探偵」としてデビューし、児童文学の世界に入る。子どもの本や文化の紹介、ミステリーの紹介・書評などで活躍している。著書『子どもを本嫌いにしない本』（大修館書店,2014）、『子供に本を買ってあげる前に読む本 現代子どもの本事情』（ポプラ社,2008）など。

¹⁴ 「萌え絵（「特徴的な大きな目」「等身が低い」「髪色がカラフル」「アニメ調の雰囲気」といったタッチの人物画を指すケースが多い）」と呼ばれるタッチのイラストを使用した作品が増え、それに対して「児童書の表紙にふさわしくない」「感受性や想像力が養われなくなりそう」と物議を醸した。

第二節 絵本選択に関する研究

前節では絵本の挿絵について着目した研究を挙げていった。本節では絵本選択、特に子どもと大人の選択を比較した研究について挙げていく。

中西ら（1992）は、二つの異なる物語絵本を選出し、絵本の好みについての比較研究を行った¹⁵。『うさこちゃんのたんじょうび』（ディック・ブルーナ文・絵/石井桃子訳 福音館書店 1982 年）と『ノンタンのたんじょうび』（キヨノサチコ作・絵 偕成社 1980 年）の絵本が扱われた。その結果、子どもが好んだ絵本は一般的に評価の高い前者の絵本ではなく、後者の絵本が圧倒的に支持されていることがわかった。そのことから、子どもが支持するのは①子どもの興味を引くと共に理解しやすい絵の描き方、②子どもの言語水準にみあったことば表現、③絵と文が効果的に適合して豊かな物語世界を構築していること、④子どもの共感を呼ぶ主人公像や絵本主題を後者の絵本が具備していることが原因だと推測した。識者から高く評価されている絵本と子どもが選択する絵本とでは、大きなズレがあることがこの研究を通して明らかになっている。

武田（1993）は、昔話絵本『かさじぞう』の絵のスタイルに関する調査と文章も含めた調査を行っている¹⁶。大学生と中学生を対象とした調査においては、絵のスタイルによって①写実的に描かれたもの②アニメ・漫画風に描かれたもの③素朴に柔らかい色彩で描かれたもの④場面ごとに人形や背景を構成し写真撮影したもの⑤水墨画風に描かれたもの、の五つのタイプ別に分類をし、評価を行った。さらに、家庭における調査においては同様の絵本を用いて、子どもの選択と父母または家族の読み聞かせに関する調査を 6 家庭で行っている。それらの結果、大学生・中学生を対象とした調査、家庭における調査のどちらもアニメ・漫画風に描かれたものが好まれる傾向にあることが示された。輪郭や色彩など、子どもに好まれやすい特徴をもつ一方で、漫画風の絵が子どもの感受性や情緒の発達を阻害する危険性を含んでいることを示した上で、絵本を選択して子どもに提供する大人は責任をもって判断するべきだと論じている。

¹⁵ 中西一弘・覚道知津子「子どもが選択する絵本と大人が選択する絵本に関する一考察—幼児絵本におけるマンガの手法の問題を中心に—」, 大阪教育大学紀要 第 V 部門 40(2), 1992, pp.223-238.

¹⁶ 武田京子「絵のスタイルから昔話絵本を考える」岩手大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要(3), 1993, pp.135-151.

村上（2018）は、子どもが絵本選びを行う上での最初に判断する材料としての表紙の絵に着目し、同じ内容で出版社の異なる絵本を複数挙げ、子どもと大人（女子大学生）の選好の違いについて検討している¹⁷。第1実験では、三作品それぞれの選択について性差や年齢差における分析している。その中で、女兒は登場人物がかわいらしく、楽しめそうなものを好む傾向にあること、一方で男児は女兒が好むような絵本を「女の子らしい」ものとしてあえて回避している可能性があることを示している。また、続く第2実験では同一の絵本の表紙を用いて、子どもに読み聞かせをしたらどれを選択するか、どのような点を重視して選択しているかについて検討している。その結果、第1実験と比較すると、子どもと大人の表紙選択には不一致が多く見られている。大人の選択理由では子どものためという考えや思いをもって選ぶ様子が見られたが、大人の考える「子どもが好きそうな絵本」と実際の子どもの好みには違いが生じたことを明らかにしている。

桑田（2006）は、学校図書館において生徒の読書材を選択する場面に着目し、その行動の特徴や要因について、中学生と高校生合わせて1000人を対象とした質問紙調査、学校図書館内での行動観察およびインタビューを行っている¹⁸。その中で、読書材の選択要因として、読書量の高い群の生徒ほど「内容の好み」「本の外見」を気にかけていることが明らかになった。また、読書量の違いにかかわらず、借りたい、読みたい本をすでに決めている生徒が約三割で、図書館に来てから決める生徒が約七割と回答している。選択行動として、「面白い本を探そう」とする場合、「ぶらぶらと探す」行動と選択要因の関係については、「あらすじ」に強い相関があり、「タイトル」「表紙」にもやや相関があることが明らかになり、それらをもとに読みたい図書を選択する傾向は高いことが示されている。そのため、読書ニーズ図書館内ではなるべく多くの図書について表紙が見えるように配置するなど、展示法や図書の紹介をするポップなどの工夫が必要であるとしている。

また、絵本と同様に玩具においても子どもと大人の選択の違いについての研究が見受けられる。西本ら（2010）は、前回調査において子どもに玩具を提供する人物と子どもの遊び相手は異なることを見出し、祖父母世代が親世代より玩具の選択・購入者として優位

¹⁷ 村上太郎「幼児の絵本選好と大人の絵本選択は一致するか？」,日本心理学回第82回大会,2018.

¹⁸ 桑田てるみ「生徒の読書材選択行動および選択要因の特徴—有効な読書案内に向けての考察—」,情報学会研究大会発表論文集,2006,pp.73-76.

にかかわることを明らかにした¹⁹。そこから、より選択・購入の意識に着目し、調査地の偏りが出ないよう調査を行った。「玩具を選択する基準」に親は「こども（原文ママ）の希望」を挙げているが、子どもの希望する玩具とは、親が買いたくないとされるキャラクター玩具となる。そのため、親の意思よりも子どもの意思が尊重される結果となった。このことから、玩具の選択については親が子どもの希望する玩具を気に入らない場合においても、子どもの選択が優先されることが示されている。

以上のように、絵本（玩具）の選択に注目した研究動向である。第一節に述べたように絵本の絵やその影響に関する研究は比較的が多い一方で、選択という部分に着目する研究は少ないと言える。また、大人と子どもの選択を比較する際に、調査対象が保育を学ぶ学生となっており、子育てを実際におこなう立場にある保護者の声が反映されていない。本研究ではそれらの点に着目し、研究を進める。

¹⁹ 西本望・佐藤恵・田原彩「玩具とのかかわりについて～玩具の選択・購入者との意識～」, 玩具福祉研究(8), 2010, pp.31-40.

第三章 絵本における絵の意味

第一節 絵本とは

絵本とは何か。『広辞苑』では、「①挿絵のある書籍。絵の本。絵草紙。②絵の手本。③絵を主体とした児童用読み物²⁰²¹」と記されている。世界初の絵入りの教科書と言われるコメニウスの『世界図絵』を起源とし、もともとは識字率の低い大衆向けに事物を説明するために絵を用いるという性質が強かったが、現代では文字を十分に読むことができない幼児・児童を対象としているものが多い。そのため、大人（識字能力のある者）が子どもに対して絵本を見せながら、文章を読んだり描かれている絵について説明したりする場面が多く見られる。読み聞かせを通して視覚と聴覚で受け取った情報を組み合わせることで、事物や物語内容などを理解することができる²²という、教育的な目的を含むこともある。しかし、子どもにとっての絵本はそうした教材としての役割だけでなく、体験や経験を育むものとして重要な役割をもっており、保育現場や家庭など子どもの日常生活において欠かせないものとなっている。絵本に関連して、『幼稚園教育要領』（平成三十年改正）において「言葉」の領域のねらいで、以下の三つを示している。

- （１）自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
- （２）人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。
- （３）日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる。

絵本を通して想像を巡らせることを楽しんだり、想像した世界を言葉や絵で表現したりするなどの体験から、これからの人生に必要な力を養っていくことの必要性を説いてい

²⁰ 新村出(編)『広辞苑』第七版 岩波書店 2018年 p.338

²¹ 松村明・三省堂編修所(編)『大辞林』第四版 三省堂 2019年 p.305

①絵を中心にして簡単な文をつけた本。主として、子ども向けの本をいう。②絵の手本。③江戸時代、絵を主とした読み物。

²² 永田桂子、中川素子参照

る。上記のことからも、保育現場や家庭の場面において絵本は子どもの成長、育ちのために広く活用されていることが見受けられる。

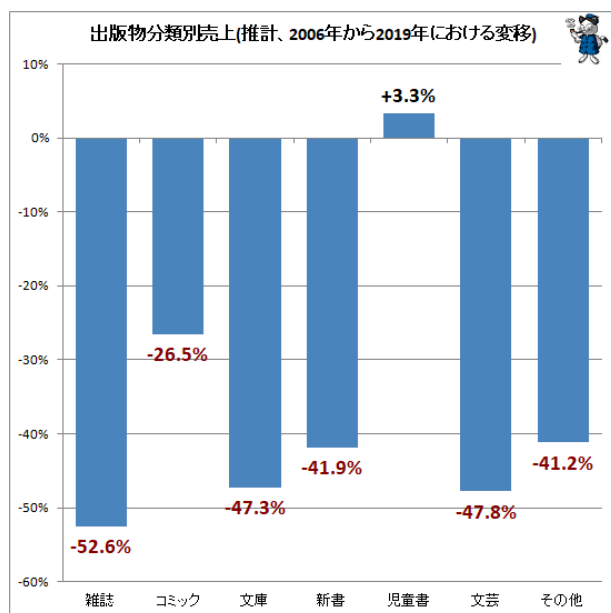


図 1 出版物の分類別売上推移をさぐる（2020 年公開版）

さらに、近年出版物の売上が低下し書籍の電子化が進んでいる中、絵本は他の出版物と比較すると、それらの影響を受けて売り上げが下がるどころか、唯一増加している様子が見て取れる（図 1 参照）。このことから、絵本の需要が高まっているということは明確であろう。さらに、2012 年には「絵本専門士²³」という民間資格までも創設され、子どもが本に触れ、親しみをもつようサポートする役割を担っている。最近では図書館などの公共機関で絵本や紙芝居の読み聞かせをおこなう「おはなし会」といったようなイベントを見かけることも多い。こうした取り組みにより、子どもの成長や親子間でのコミュニケーションといった点からも、絵本の需要は高まっていると推察できる。

ところで、子どもの絵本との出会いはさまざまである。保護者や保育者に読み聞かせ

²³ 国立青少年教育振興機構により、子どもたちの健やかな成長を促す絵本の可能性やその活用法を、学校や家庭のみならず地域社会全般に普及させるとともに、実際に絵本の読み聞かせやワークショップをはじめ子供たちの読書活動の推進に携わる、絵本の専門家（絵本専門士）を養成する必要があることから、創設された制度。読み聞かせやおはなし会、ワークショップなど実際に本を使って行う取組み、絵本に関する知識をもって行う指導・助言、絵本に関する自らのネットワークを活かした人的・物的ネットワークなど幅広く、活動の場所も幼稚園や学校から図書館、医療機関まで様々となっている。

てもらった体験、図書館や園などで絵本の棚から自分で見つけた体験など、子どもにとって絵本は身近な存在であり、子どもの頃に読んだ絵本がもたらす影響は大きいと考えられる。中には、子どもの頃に絵本に触れる機会があまりなかった人も、大人になって絵本を読んでもと絵本の奥深さに気づくこともある。さらには、幼い頃には手に取らなかったような絵本に目を向けることもありうる。絵本は子ども向けのものと思われがちであるが、最近では大人を対象としたものや社会や人間性を映した内容などの、メッセージ性を含み、考えさせられるような作品にも注目が集まっている。

第二節 絵本の絵

絵本は絵と言葉を用いた表現メディアである。主に絵本は絵と言葉によって構成されるものであって、識字能力の不完全な子どもにとって絵本は「絵」と読み聞かせの「声」という視覚と聴覚の情報によって成り立っている。そのため、絵本における「絵」は子どもがその絵本の世界にどの程度入り込めるかを左右する重要な役割を担っている。

松居直（2004）は、絵本の絵について、「絵本の場合は、さし絵による強力な映像化を伴う。そのため聴き手のイメージはさし絵表現の枠をはめられ、この枠の中でイメージを展開させることになる。したがって絵の質は決定的な影響を与える²⁴」と述べており、絵本の挿絵の質が聴き手の想像力に影響することを指摘している。また、同書にて松井は「子どもが読者である場合は、子どもが自分で絵本をつくるんです。つまり、耳で言葉を聞いて、目で絵本の挿絵を見ます。実は子どもは挿絵を見るのではなく、読んでいます。絵というのは、すべて言葉の世界です。言葉にならない絵はありません。（中略）子どもたちは絵を読むのです²⁵」とし、子どもにとっての絵本の挿絵は重要な情報を含んでいるということを示唆している。たしかに、藪中（2012）は写實的に描かれた絵とアニメ・マンガ的に描かれた絵では、想像力の引き出し方に有意な差があることを明らかにしており、他にも絵の違いによって子どもに及ぼす影響は異なるという研究は数多くなされている。このことから、「絵を読む」というのは、大人（識者）が絵を見るという感覚とは大きく異なり、より絵の詳細な部分から食欲に情報を得ようとする子どもたちの行動のことを指すと考えられる。では、子どもと大人では絵本の絵に求めるものは違うのか。

そもそも、絵本の完成までにはすべての工程で大人が介入する。そのため絵本は大人（作者）が今の子どもたちの需要を把握し、その時代ごとの子どもたちに受け入れられ、魅力を感じ、読んでいううちに引き込まれるような絵でなければいけない。では、子どもたちから支持を得られさえすればいいか、というとそうでもない。子どもが絵本を手取るには大人（保護者）にも受け入れられる絵でなければならない。この問題が顕わになったのが、児童書の萌え絵論争である。この論争では、子どもが喜ぶ絵にするために、出版社がアニメのキャラクターデザインを担当していた漫画家に依頼し制作したものの、「な

²⁴ 松居直『絵本を読む（新装版）』日本エディタースクール出版部 2004年 p. 13

²⁵ 同上書籍 p. 53

ぜ萌え絵にしたのか」というクレームが殺到した²⁶。この論争こそが、子どもに絵本を与えるには大人の許可を得てから、という図が出来上がっていると推察できる。もちろん、すべての家庭、保育現場でこのような構図が起こっているとは言い難いが、多少なりとも絵本の絵に口をはさむ大人という存在はいる。

ところで、絵本は挿絵だけでなく表紙の絵から裏表紙の絵まで、一つの物語として成り立っている。表紙に始まり、見返し、タイトルページ、本文、裏表紙まで、さまざまな工夫がなされており、作者の思いが詰まった作品となっている。これらの表紙などの本の外側のデザインのこと、またその行程を装丁と言い、出版社によってその時代に合わせた装丁を、と何度も見直され、その時々の子どもたちに読みやすくする努力を続けている。本研究では装丁という広義な意味で捉えるのではなく、本を開く向きに置いたときに表に来る「表表紙」に着目している。

²⁶ 河出書房新社の公式ツイッター (@Kawade_shobo) では、絵本作家たちに「萌え絵を描いてください」とお願いしたのではなく、「子ども自身が飛びつく絵を」という発注をしたと明かした。その上で、「なぜ萌え絵にしたのか」としきりに質問され、担当者が何度も説明しても理解してもらえず苦慮しているとの書き込みが見られた。加えて、このシリーズでは、「子どもが喜ぶ絵を」という意図が達成されているとし、今の子どもたち向けにと電子書籍版も出されている。

第三節 絵本と漫画の違い

前節で述べたように、絵本にとっての絵は子どもの絵本の世界を広げる重要な役割を担っている。その中で、絵本は絵と文を用いて伝えるという点において、漫画の形式と似ているところもある。中川ら（2001）は、絵本の絵について「マンガと同様の伝達手段としての役割を本来持っています²⁷」とするも、多くの絵本の絵は「美的対象としてそれ自体で鑑賞されることを要求しており、読者もまた（大人の読者はとくに）、そのようなものとしてそれを受け取る傾向があります²⁸」と述べている。つまり、絵本は漫画的な側面がある一方で、漫画として受け取るのではなく、美術的な側面として受け取る傾向にあり、またそうすることを求めているということにある。このような漫画を忌避する傾向にあるのは「おたく文化²⁹」を嫌い、そういった特徴をもつ漫画に差別的意識をもつということも推察できる。子どもにとって絵本という存在が、今後の発達に大きく影響を与えるということから、こうした偏った文化を取り入れることに抵抗があるといえる。

ところで、玩具がその時代ごとのテレビ番組やアニメなどの流行や人気によって目まぐるしく変容していく一方で、絵本は玩具ほどの変容が見られることはない。もちろん、ロングセラー商品なども存在するが、次々と新しい商品が現れ、子どもや大人は買い求めていく。その点において玩具と比較すると、より一層絵本は変化・変容を避ける傾向にあると推測する。

²⁷ 中川素子・今井良朗・笹本純『絵本の視覚表現—そのひろがりとはたらき』日本エディタースクール出版部、2001, p. 107.

²⁸ 同上書籍 p. 107

²⁹ おたく文化とはアニメやマンガ、ゲーム、ライトノベル、あるいは秋葉原やインターネットなどに代表される、「おたく」と呼ばれる人々を中心として消費されるコンテンツの総称のこと

第四章 絵本の絵に関する大学生の意識調査

第一節 調査の概要

1. 調査目的

絵本の絵には、読み手が手に取りたくなうような仕組み、工夫が施されている。そして、これまでに述べたように、絵本の選定という場面において視覚的な情報としてまず受け取る表紙は、とても重要な枠割を担っているものであると推定している。そこで、本調査ではSD法を用いて、絵本の表紙に対するイメージを測定する次元を、大学生を対象として検討した。この調査は、それぞれの絵の印象について因子を用いて客観的に捉え、論じることを目的としている。

2. 調査期間

本調査は、2021年7月11日から2021年7月31日の間に行われた。

3. 調査協力者

調査協力者は、武庫川女子大学教育学部教育学科第2学年及び第3学年、文学部教育学科第4学年の総計277名分のデータが得られた（表1参照）。調査用紙の配布数及び回収数、有効回答数は以下のとおりである。

表1 配布・有効回答数

| 学年・学部 | 配布数 | 回収数(%) | 有効回答数(%) |
|--------------|-----|------------|------------|
| 教育学部教育学科第2学年 | 140 | 139 (99.3) | 128 (92.1) |
| 教育学部教育学科第3学年 | 95 | 94 (98.9) | 89 (94.7) |
| 文学部教育学科第4学年 | 42 | 42 (100) | 42 (92.9) |
| 合計 | 277 | 275 (99.3) | 259 (93.1) |

4. 資料抽出の手続き

本調査では、長年子どもたちから支持され、絵本やアニメーションなども数多く世に出され、親しまれている『シンデレラ』の物語絵本の表紙を用いることとする。本調査に『シンデレラ』絵本を取り上げた理由としては、さまざまなタイプの絵柄を用いた絵本が出版されていること、さらに、星野ら（1998）より母親が好きな童話・昔話において『シンデレラ』が1～6歳の子どもをもつ親から支持されており、子どもが好きな童話・昔話においても年齢問わず挙げられていることから、子どもに限らず幅広い世代で親しまれてきた物語であると推察できるためである。

『シンデレラ』の物語として出版された書籍から、本調査に使用する書籍を選出する。選出には、絵本について幅広く取り扱う web サイト「絵本ナビ」を用い、キーワード検索を「絵本児童書」「シンデレラ」で行ったところ、126 件が該当した。そこで『シンデレラ』の物語を象徴とする以下に示す条件を設定し、本調査の研究資料として抽出する。なお、しかけ絵本、紙芝居、ディズニー作品、オマージュ作品、パロディー作品、学習用教材は本調査の資料にそぐわないと判断し、除外した。

5. 『シンデレラ』絵本の選定における条件

現在親しまれている『シンデレラ』の物語は、フランスの童話作家シャルル・ペロー（Perrault, Charles, 1628-1703）の『サンドリヨン、または小さなガラスの靴』やドイツ、グリム兄弟のグリム童話集に収録された『灰かぶり』が知られている。また日本人においては、ウォルト・ディズニー（Disney, Walt, 1901-1966）によってアニメーション化された作品もなじみ深いものだろう。その他にも古代エジプトや中国など、さまざまな国や地域で語り継がれている民話に、類似点があることが明らかとなっており、日本ではペロー版『シンデレラ』が主流となっている。なお、本調査では絵本の表紙絵に着目するため、物語内容については言及しない。

『シンデレラ』絵本において、物語の要素となる特徴を条件として設定する。ペローの題名からは、上記のように「ガラスの靴」がシンデレラの物語において重要な要素として挙げられる。また、江良（2017）はディズニー・アニメーション版『シンデレラ姫』における服飾表現について、作品公開時に流行していたスタイルや色彩を取り入れていることに着目している。そのことから、シンデレラ作品における「ドレス」が重要な要素とし

て挙げられる。加えて、シンデレラ自体の要素に偏りがないように、主要な登場人物（シンデレラ、王子など）が人間であることとする。以上の三点、「ガラスの靴」「ドレス姿」「人間であること」を表紙の絵の条件として選定を行ったところ、表2に示す四つの絵本が挙げられる。

表2 本調査の資料として用いる『シンデレラ』絵本一覧

| No. | 作品名 | 作者名 | 出版社 | 出版年 |
|-----|----------------------------------|--------------------------------|--------|------|
| 1 | シンデレラ 〈世界名作 ファンタジー(4)〉 | 平田昭吾文 羽根章悦絵 | ポプラ社 | 1985 |
| 2 | シンデレラ 〈せかいめいさくアニメ えほんシリーズ〉 | 梯子有子文 上北ふたご絵 | 河出書房新社 | 2013 |
| 3 | シンデレラ | バーバラ・マクリントック再 話・絵 福本友美子訳 | 岩波書店 | 2015 |
| 4 | シンデレラ | グリム兄弟作 サラ・ギブ絵 角野英子訳 | 文化出版局 | 2017 |



図 2 絵本①



図 3 絵本②

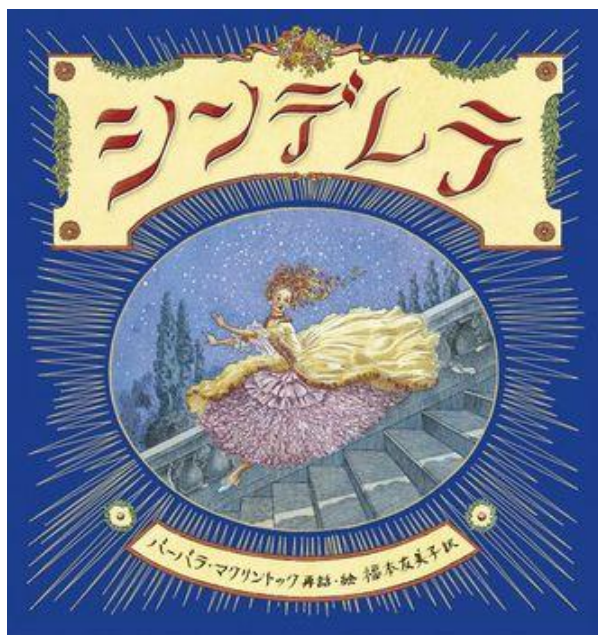


図 4 絵本③

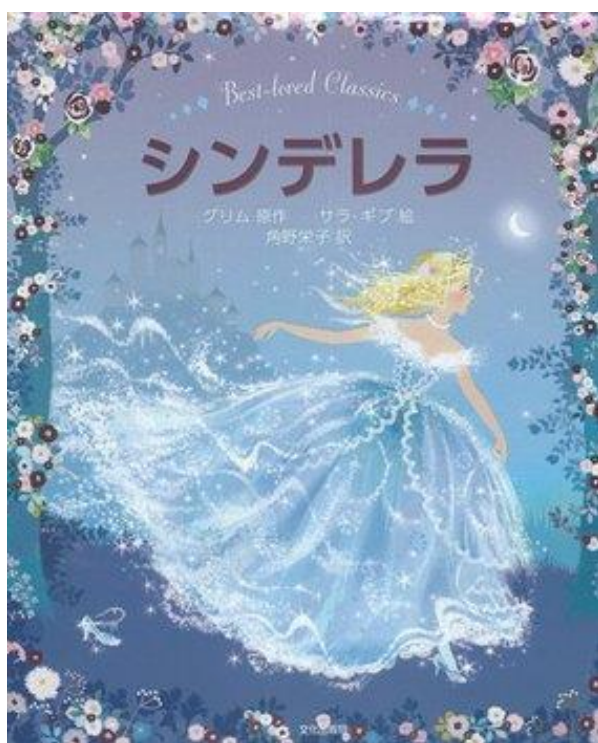


図 5 絵本④

6. 調査手続き

表 1 に記した『シンデレラ』絵本四種の表紙に対して、SD 法を用いてイメージを評定させるため、大学生を対象にアンケート調査をおこなった。質問紙の項目内容については、井上・小林（1985）、若山・表（2011）の形容詞対を参考に表 3 の 27 対を用いている。回答については、「非常にあてはまる」「ややあてはまる」「どちらでもない」「ややあてはまる」「非常にあてはまる」の 5 件法で評定させた。

表 3 調査 1 に用いる形容詞対一覧

| 形容詞対 項目 | |
|-------------------|-------------------|
| 1 快い - 不快 | 15 活発な - 落ち着いた |
| 2 かわいらしい - にくらしい | 16 濃い - 薄い |
| 3 明るい - 暗い | 17 くどい - あっさりした |
| 4 美しい - みにくい | 18 派手な - 地味な |
| 5 きれい - きたない | 19 動的 - 静的 |
| 6 あたたかい - つめたい | 20 力強い - 弱々しい |
| 7 陽気な - 陰気な | 21 重厚な - 軽薄な |
| 8 親しみやすい - 親しみにくい | 22 深みのある - うわべだけ |
| 9 やさしい - おそろしい | 23 迫力のある - ものたりない |
| 10 華やか - わびしい | 24 現実的な - 非現実的な |
| 11 穏やかな - 荒々しい | 25 むずかしい - わかりやすい |
| 12 新しい - 古い | 26 複雑な - 単純な |
| 13 大人っぽい - 子どもっぽい | 27 はっきりした - 不明瞭な |
| 14 騒がしい - ものしずかな | |

7. 倫理的配慮

調査への協力は、調査協力者の自由意思であり、その同意の諾否にかかわらず、何ら不利益を被ることはないこと、さらに、得られた情報は本研究とその報告の目的で利用することを記載し、調査協力者の理解を求めた。回答の記載があった調査用紙を承諾を得たものとした。調査用紙については、調査協力者が特定されないよう、無記名での回答とした。回収した質問紙は集計の処理をした後、封をした箱に入れ、鍵のかかる部屋で厳重に保管している。なお、本調査について倫理審査委員会の許可を受けている。

第二節 結果と考察

(1)結果

因子分析の結果、5 因子が抽出された。第 1 因子は、「活発な - 落ち着いた」「騒がしい - ものしずかな」「動的 - 静的」「新しい - 古い」「陽気な - 陰気な」の 5 項目からなり、第 1 因子「活動性」と名付けた。第 2 因子は、「親しみやすい - 親みにくい」「やさしい - おそろしい」「あたたかい - つめたい」「むずかしい - わかりやすい」「複雑な - 単純な」「穏やかな - 荒々しい」「明るい - 暗い」「かわいらしい - にくらしい」「快い - 不快」の 9 項目からなり、第 2 因子「明るさ」と名付けた。第 3 因子は、「大人っぽい - 子どもっぽい」「現実的な - 非現実的な」「くどい - あっさりした」「派手な - 地味な」「濃い - 薄い」の 5 項目からなり、第 3 因子「現実味」と名付けた。第 4 因子は、「きれい - きたない」「美しい - みにくい」「華やか - わびしい」の 3 項目からなり、第 4 因子「美しさ」と名付けた。第 5 因子は、「重厚な - 軽薄な」「力強い - 弱々しい」「深みのある - うわべだけ」「迫力のある - ものたりない」「はっきりした - 不明瞭な」の 5 項目からなり、第 5 因子「力強さ」と名付けた（表 4 参照）。

表 4 絵本の表紙に対するイメージ評定

| 項目 | F1 | F2 | F3 | F4 | F5 | 共通性 |
|-------------------|-------------|--------------|--------------|--------------|-------------|------|
| 第 1 因子 活動性 | | | | | | |
| 活発な - 落ち着いた | .958 | -.162 | .033 | -.077 | .053 | .813 |
| 騒がしい - ものしずかな | .930 | -.212 | -.021 | -.056 | .031 | .817 |
| 動的 - 静的 | .755 | -.158 | .065 | -.020 | .119 | .509 |
| 新しい - 古い | .684 | .078 | .084 | .230 | -.256 | .552 |
| 陽気な - 陰気な | .621 | .484 | .051 | -.112 | -.016 | .650 |
| 第 2 因子 明るさ | | | | | | |
| 親しみやすい - 親しみにくい | .056 | .834 | .161 | -.092 | .099 | .627 |
| やさしい - おそろしい | .053 | .689 | .181 | .086 | .009 | .576 |
| あたたかい - つめたい | .346 | .642 | .030 | -.186 | .091 | .521 |
| むずかしい - わかりやすい | .333 | -.615 | .310 | .045 | -.040 | .351 |
| 複雑な - 単純な | .354 | -.488 | .184 | .158 | .084 | .173 |
| 穏やかな - 荒々しい | -.271 | .484 | .270 | .069 | -.028 | .405 |
| 明るい - 暗い | .344 | .446 | -.224 | .206 | -.116 | .767 |
| かわいらしい - にくらしい | .020 | .435 | -.156 | .359 | .001 | .605 |
| 快い - 不快 | -.085 | .429 | .318 | .279 | .115 | .503 |
| 第 3 因子 現実味 | | | | | | |
| 大人っぽい - 子どもっぽい | -.004 | -.230 | .754 | .225 | .027 | .626 |
| 現実的な - 非現実的な | .173 | -.030 | .714 | -.114 | .189 | .344 |
| くどい - あっさりした | .186 | -.224 | -.552 | .006 | .254 | .631 |
| 派手な - 地味な | .243 | .100 | -.523 | .206 | .111 | .739 |
| 濃い - 薄い | .000 | -.091 | -.521 | -.072 | .424 | .575 |
| 第 4 因子 美しさ | | | | | | |
| きれい - きたない | -.019 | -.111 | .030 | 1.008 | .014 | .863 |
| 美しい - みにくい | -.052 | -.080 | .028 | .982 | .063 | .855 |
| 華やか - わびしい | .125 | .330 | -.327 | .380 | .015 | .718 |
| 第 5 因子 力強さ | | | | | | |
| 重厚な - 軽薄な | -.123 | .051 | .128 | .024 | .679 | .425 |
| 力強い - 弱々しい | .319 | .013 | -.039 | -.021 | .566 | .556 |
| 深みのある - うわべだけ | -.276 | .082 | .467 | .079 | .563 | .544 |
| 迫力のある - ものたりない | .233 | .061 | .082 | .096 | .539 | .436 |
| はっきりした - 不明瞭な | -.086 | .362 | -.239 | .037 | .375 | .427 |

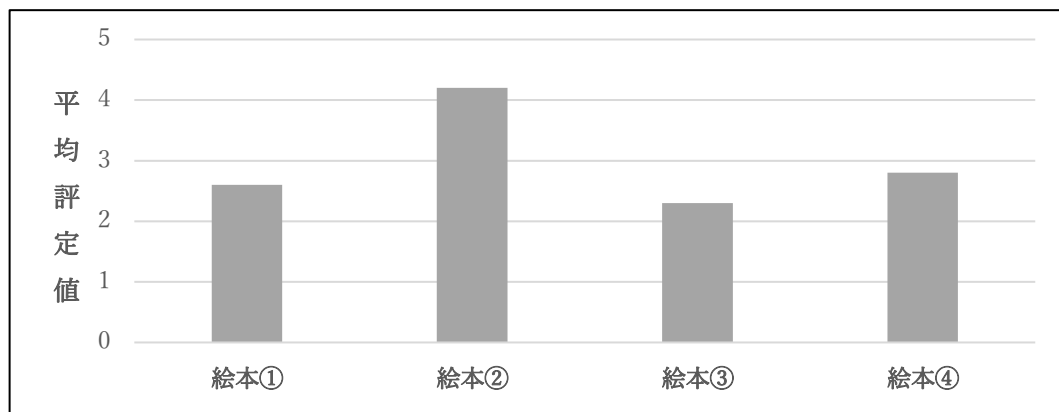


図 6 第 1 因子「活動性」における因子得点の平均値

図 6 は、第 1 因子「活動性」における因子得点の平均値である。図 6 を見ると、絵本②の数値が最も高く、次いで絵本④、絵本①、最も低いのは絵本③となった。t 検定の結果、絵本②とその他 3 種の絵本の間に有意な差が見られ、絵本①と絵本③、絵本①と絵本④、絵本③と絵本④にも有意な差が見られた ($p<0.05$)。

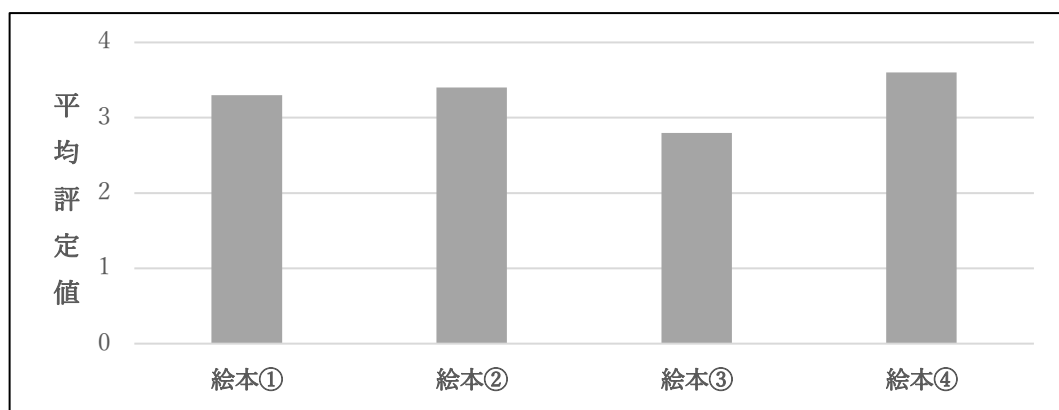


図 7 第 2 因子「明るさ」における因子得点の平均値

図 7 は、第 2 因子「明るさ」における因子得点の平均値である。図 7 を見ると、絵本④の数値が最も高く、次いで絵本②、絵本①、最も低いのは絵本③となった。t 検定の結果、絵本④とその他 3 種の絵本の間に有意な差が見られ、絵本①と絵本②、絵本①と絵本③、絵本①と絵本④、絵本②と絵本③、絵本②と絵本④、絵本③と絵本④に有意な差が見られた ($p<0.05$)。

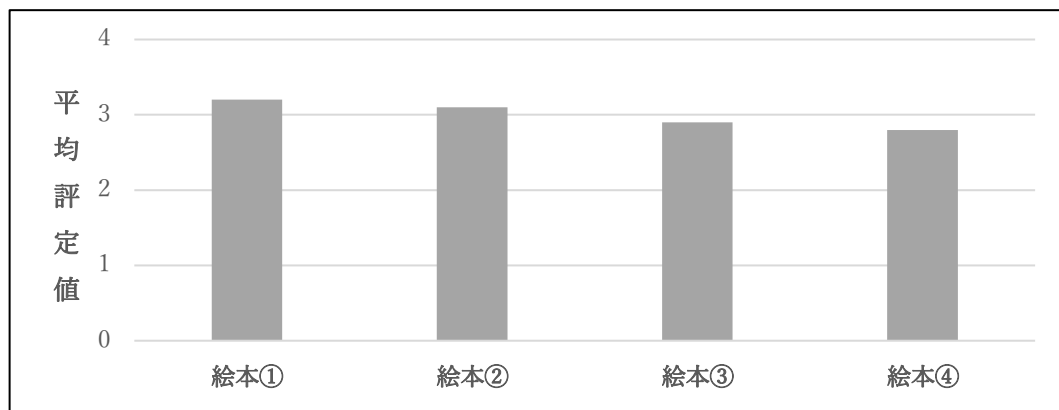


図 8 第 3 因子「現実味」における因子得点の平均値

図 8 は、第 3 因子「現実味」における因子得点の平均値である。図 8 を見ると、絵本①の数値が最も高く、次いで絵本②、絵本③、最も低いのは絵本④となった。t 検定の結果、絵本①と絵本③、絵本①と絵本④、絵本②と絵本③、絵本②と絵本④に有意な差が見られた ($p<0.05$)。

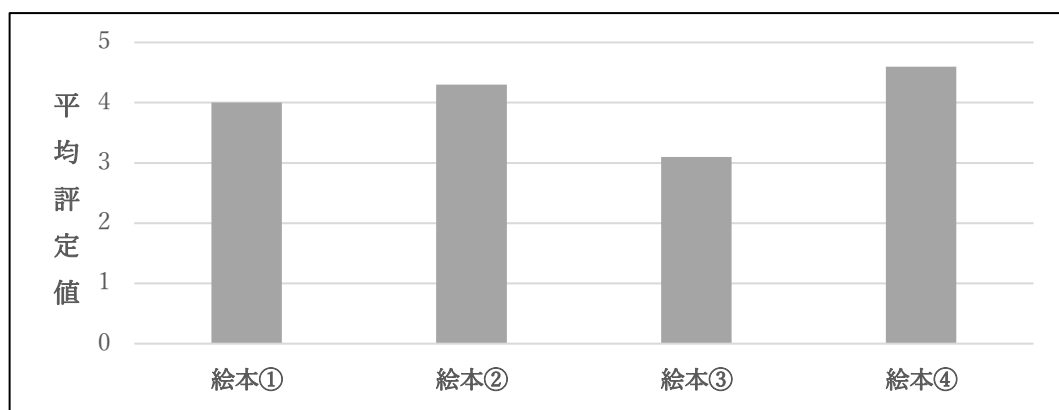


図 9 第 4 因子「美しさ」における因子得点の平均値

図 9 は、第 4 因子「美しさ」における因子得点の平均値である。図 9 を見ると、絵本④の数値が最も高く、次いで絵本②、絵本①、最も低いのは絵本③となった。t 検定の結果、絵本①と絵本②、絵本①と絵本③、絵本①と絵本④、絵本②と絵本③、絵本②と絵本④、絵本③と絵本④に有意な差が見られた ($p<0.05$)。

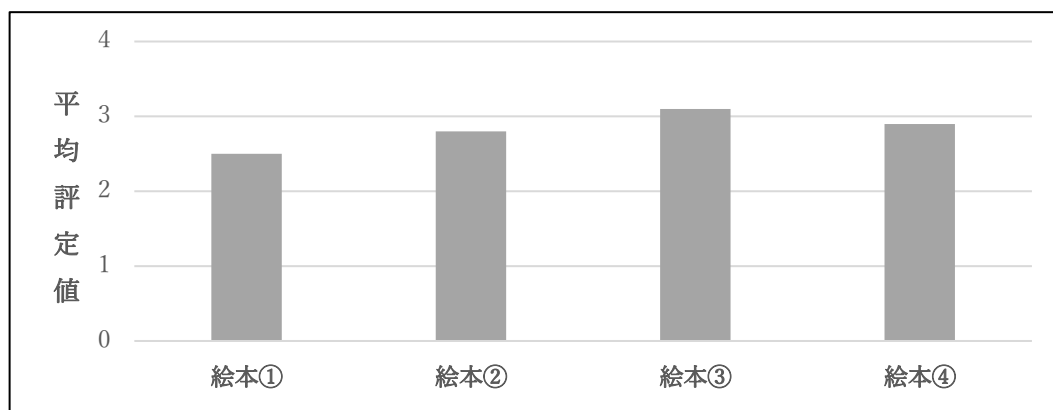


図 10 第 5 因子「力強さ」における因子得点の平均値

図 10 は、第 5 因子「力強さ」における因子得点の平均値である。図 10 を見ると、絵本③の数値が最も高く、次いで絵本④、絵本②、最も低いのは絵本①となった。t 検定の結果、絵本①と絵本②、絵本①と絵本③、絵本①と絵本④、絵本②と絵本③、絵本②と絵本④に有意な差が見られた ($p<0.05$)。

(2) 考察

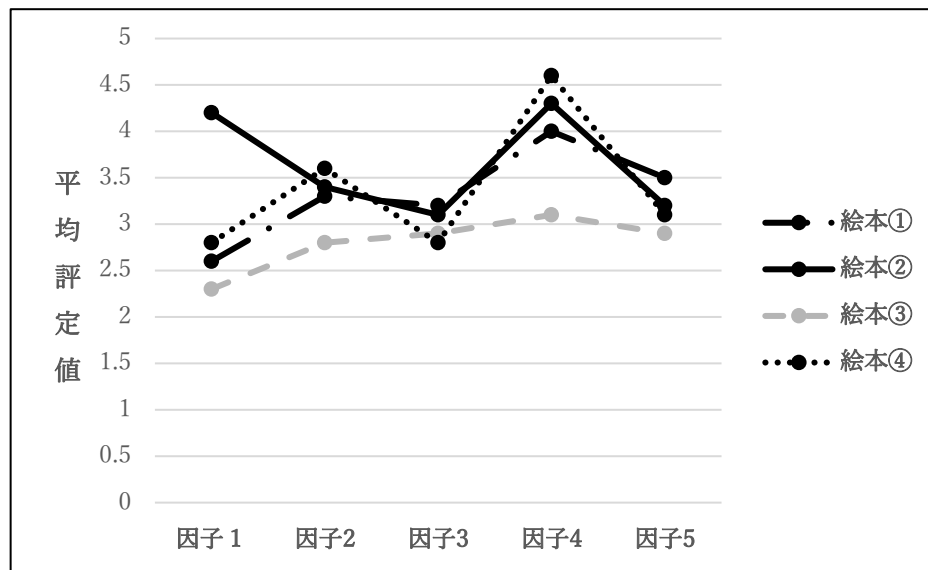


図 11 各因子得点の平均値

四種類の絵本ごとに各因子の平均値を算出した（図 11）。この結果から、第 1 因子「活動性」において、絵本②と絵本①、絵本③、絵本④の平均値の現れ方が対照的である。このことから、絵本②は「新しい」「動的」な印象であり、他三つは「古い」「静的」な印象であることが特徴として挙げられる。第 2 因子「明るさ」については、絵本③と絵本①、絵本②、絵本④の平均値に差が見られる。このことから、絵本③は「暗い」「冷たい」印象であり、他三つは「明るい」「あたたかい」印象であることが特徴として挙げられる。第 3 因子「現実味」については、絵本①、絵本②と絵本③、絵本④で平均値に差が見られた。このことから、絵本①、絵本②には「現実的」「派手」な印象であり、絵本③、絵本④は「非現実的」「地味」な印象であることが特徴として挙げられる。第 4 因子「美しさ」については、絵本③と絵本①、絵本②、絵本④の平均値の現れ方が対照的となっている。このことから、絵本③は「美しくない」「わびしい」印象であり、他三つは「美しい」「華やか」な印象であることが特徴として挙げられる。第 5 因子「力強さ」については、絵本①と絵本④の平均値の現れ方が対照的である。このことから、絵本①は「力強さ」「重厚な」印象があり、絵本④は「弱々しい」印象であることが特徴として挙げられる。

第五章 絵本における子どもと大人の嗜好の違いに関する調査

第一節 調査の概要

1. 調査目的

前章の調査において、四種類の絵本におけるイメージ評定をおこなった。次いで本章では、一対比較評価法を用いて、子どもと大人の絵本の表紙に対する好悪の違いを測定する。

2. 調査期間

本調査は、2021 年 9 月 1 日から 2021 年 9 月 31 日の間に行われた。

3. 調査協力者

調査協力者は武庫川女子大学附属幼稚園に通っている 5 歳児 30 名とその保護者（代表者一名）25 名であった。両者の数が異なっているのは、事前に子どもおよびその保護者それぞれの調査の参加について、参加・非参加に関する同意書を提出させたためである。

4. 調査に用いる資料

前章では『シンデレラ』の絵本の表紙四種類について、形容詞対を用いたアンケート調査をもとに分析を行った。本調査では同様のものを資料とする。

5. 調査手続き

(1) 子どもを対象とした調査について

個別面接法で調査した。質問方法については調査協力者の年齢を考慮し、サーストン法を用いた。幼稚園の空き教室にて行った（図 12 参照）。刺激は前章で使用した四種類の絵本の表紙を拡大コピーし、パネルにしたものを使用した。まず、調査協力者に名前、所属するクラス名を尋ね、簡単に調査の説明を行った。なお、子ども本人に調査についての説明および参加について次のように尋ね、子どもが拒否すれば調査は中止とした。「今から絵を見てもらって、いくつか質問をします。もし、あなたが嫌だと思ったり答えたくないと思ったりしたらすぐにやめるので、教えてください」。

はじめに、「〇〇（調査協力者の名前）くん/ちゃんは『シンデレラ』のおはなしは知っているかな」と質問した。その後、二つのパネルを提示しながら「どちらも同じ『シンデレラ』の絵本です。どちらの方が好き、または読みたいと思いますか」と質問し、どちらか一つを選ばせた。なお、四つの絵本の表紙の提示する順序は選択への影響を少なくするよう、ランダムとした。

〈調査手順〉

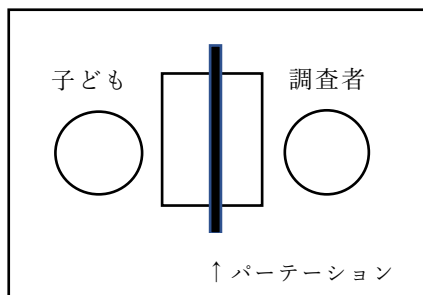


図 12 のように、可能な限り子どもとの接触を避けるため、子どもと調査者の間にパーテーションを設定した机を挟んで調査を行う。

図 12

(2) 大人を対象とした調査について

質問紙を用いたアンケート調査で行った。質問方法については、子どもを対象とした調査と対応させるため、シェッフェ法を用いた。質問は以下の通りであった。

四種類の表紙を提示し、5 段階で評価した。質問項目の内容は以下のとおりである。

「保護者自身が読みたいと思うもの」

「子どもが読みそうなもの」

「子どもに読んでほしいもの」

また、絵本についての一般的な意見を調べるため、以下の二つの質問をした。

「子どもにどのような絵本を読ませたいか」

「子どもが興味をもっている絵本は何か」

また、回答者の属性についても質問した。

保護者（回答者）の年齢、性別、子どもの数・年齢・性別

6. 倫理的配慮

調査への協力は調査協力者の自由意思であり、その同意の諾否にかかわらず、何ら不利益を被ることはないこと、さらに、得られた情報は本研究とその報告の目的で利用することを記載し、調査協力者の理解を求め、承諾を得た。調査については、事前に子どもおよびその保護者それぞれの調査の参加に関する同意書を、調査の参加、不参加にかかわらず提出してもらった。

本調査では、可能な限り子どもとその保護者を結びつけて分析を行うことを目的としているため、調査時には子ども及びその保護者の氏名または一部の個人情報を明記する必要がある。そのため、書面にて保護者の同意を得、さらに研究の報告・公表については個人情報を匿名加工することによって、調査協力者が特定されないようにした。

さらに、コロナ感染を防ぐためにマスクの着用、消毒の徹底、子どもとの可能な限りの接触を避けること、パーティションの設置を行った。それに加え、調査前2週間の調査者の検温表を提出した。

なお、本調査について倫理審査委員会の許可を受けている。

第二節 結果と考察

・子どもの選択

(1)結果

得られた回答を表 4 に示した。表は行方向で数値を読む。たとえば、絵本①と絵本②を比べた場合、絵本①を選択したのは 3 名、絵本②を選択したのは 18 名という結果である。

表 4 子どもの選択数 (n=21)

| | 絵本① | 絵本② | 絵本③ | 絵本④ |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| 絵本① | | 3 | 13 | 5 |
| 絵本② | 18 | | 12 | 15 |
| 絵本③ | 8 | 9 | | 1 |
| 絵本④ | 16 | 6 | 20 | |

最終的な尺度値として表 5、図 13 に示す。表 5 から、尺度値が最小となる絵本②、絵本④、次いで絵本①、絵本③の順になっている。



図 13 子どもの選択に関する尺度値

(2) 考察

図 13 より、提示した四種類の絵本の表紙で比較すると、子どもは絵本②、④を好む傾向にあることは明らかである。前章における絵本の表紙絵のイメージ評定に関する調査において、絵本②は「新しい」「明るい」印象があり、絵本④については、「新しい」「動的」な印象はないものの、絵本②の特徴と重なる部分があるため、同様に選択される傾向にあると推察する。特に絵本②は「子どもが喜ぶ絵を」と、河出書房新社がプリキュアシリーズを手掛けた上北ふたごにイラストを依頼したことから、この結果は出版社のねらい通りとなったであろう。プリキュアを好む女兒からの人気が高かったことがわかる。中澤ら（2015）のように、子どもが「かわいいイメージの絵」を好む傾向にあると示したことから、この結果は納得である。しかし、一部の男児からは「かわいいものが嫌い」という意見もあった。

絵本④が選ばれた理由として、表紙が金髪で水色のドレスを着ている少女が描かれているという点で、子どもたちの間で認知度の高い「ディズニー作品」の『シンデレラ』のイメージに最も近く、選択傾向にあったと推察できる。調査時に『シンデレラ』を知っているかという質問をしたところ、知っていると答えた子どもの多くは「ディズニー作品」のプリンセスを見たことがある、と回答していた。このことから、『シンデレラ』＝「ディズニー作品」の『シンデレラ』のイメージがあると考えられる。

絵本③については、絵本の印象として「暗い」「冷たい」「地味」「わびしい」特徴があることから、絵本②のような「かわいらしい」印象の絵本を好む子どもにとってはあまり人気がなかったようである。

このことから、子どもが『シンデレラ』の表紙として、「明るい」「美しさ」「華やかさ」をもったものを好むことが推察される。

・大人の選択

(1)結果

得られた回答をもとに分析をおこなった結果を図 14,15,16 に示す。図 14 の「大人が読みたい」絵本に関する尺度を見ると、尺度値が最小となる絵本④、次いで絵本①、絵本③、絵本②の順となっている。

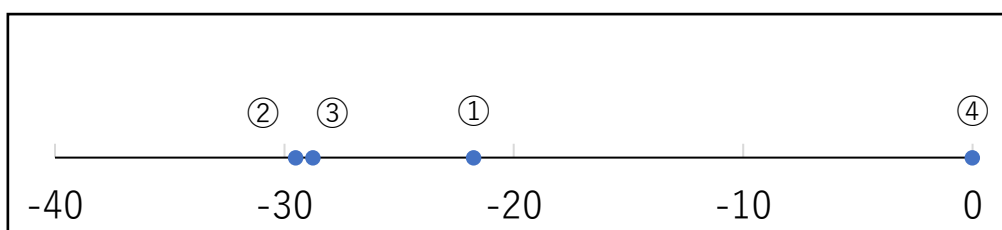


図 14 「大人が読みたい」絵本に関する尺度値

また、図 15 の「子どもが選びそう」な絵本に関する尺度では、絵本②に次いで絵本①、絵本④、絵本③の順となっている。

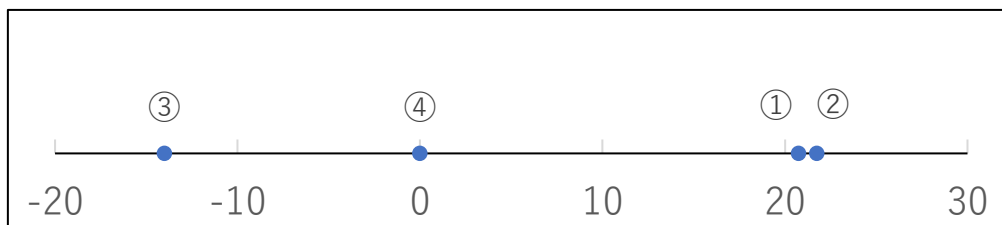


図 15 「子どもが選びそう」な絵本に関する尺度値

続く、図 16 の「子どもに読ませたい」絵本に関する尺度では、絵本④に次いで絵本①、絵本②、絵本③の順となっている。

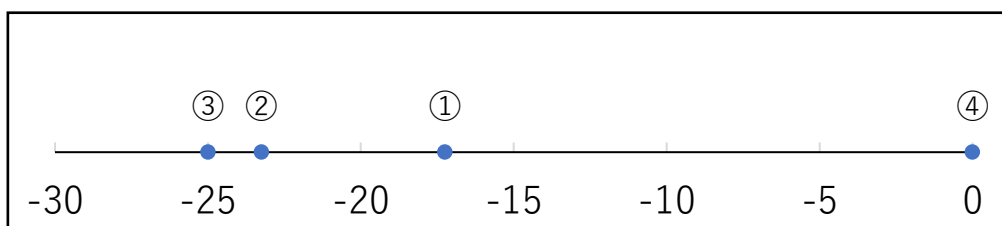


図 16 「子どもに読んでもほしい」絵本に関する尺度値

(2) 考察

図 14 より、「大人が読みたい」絵本については絵本④が圧倒的に人気があり、絵本②、絵本③はあまり好まれない傾向にあった。しかし、図 15 の「子どもが選びそう」な絵本については順番が大いに異なり、絵本②、絵本①を選択する傾向にある。このことから、大人自身が読みたいと思う絵本と子どもが選ぶと考えられる（子どもが好むと考えられる）絵本は異なっていることが明らかになった。また、図 16 の「子どもに読んでほしい」絵本については、絵本④の選択傾向が非常に高く、次いで絵本①、絵本②、絵本③となっている。「子どもに読んでほしい」絵本では、「子どもが選びそう」な絵本とは選択傾向が全く異なり、「大人が読みたい」絵本と選択傾向が似ていることが明らかである。「子どもが選びそう」だと考えられる絵本と「子どもに読んでほしい」絵本では、大きな意識の相違があることが明らかとなった。

大人に受けのいい絵本④については、子どもと同様に「ディズニー作品」の『シンデレラ』の特徴から好まれる傾向にあるとも考えられるが、絵本①や絵本②と比較すると写実的な印象があり、絵本③と比較すると「明るく」「華やかな」印象をもっていることも選択された一因であると推察する。特に大人は絵本の絵を美的対象として受け取る傾向もあり、そうした点で絵本④は他 3 種と比較して選択されたと考えられる。

「子どもが選びそう」な絵本として絵本②や絵本①を挙げていることから、絵本②については女兒が親しみやすい絵柄、絵本①については「現実的」で「はっきりした」印象が子どもに受け入れられると考えたと推察する。

このことから、「大人が読みたい」絵本は「子どもに読んでほしい」絵本とほぼ同義と言える。この調査で、「子どもに読んでほしい」絵本は「大人が読みたい」と思えるようなものが受け入れられやすいことが推察される。

・親子間での選択の比較

本研究では、親子間における選択のズレを検討するところにある。そこで、子どもと保護者の回答を結びつけて分析を行う。分析方法については、子どもを対象とした調査ではサーストンの一対比較法を用いていることから、子どもが選択した対象を「1点」、選択しなかった対象は「0点」として、得点化した。大人を対象とした調査は、シェッフェの一対比較法を用いて5件法でおこなっていることから、次のように得点化した（表6参照）。

表6 アンケート調査用紙例

| 絵本① | | | 絵本② | |
|--------------|-------------|-------------|-------------|--------------|
| 非常に あてはまる | やや あてはまる | どちらでも ない | やや あてはまる | 非常に あてはまる |
| | ○ | | | |

表6は、大人を対象とした調査における一例を表している。「非常にあてはまる」、「ややあてはまる」と回答した対象にはそれぞれ「2点」「1点」を、選択されなかった対象には「-2点」「-1点」を付けた。なお、「どちらでもない」を回答した場合は「0点」とした。表6の回答の場合、絵本①と絵本②を比較したところ、「絵本①」が「ややあてはまる」回答であることから、絵本①に「1点」、絵本②に「-1点」として得点化した。

(1)結果

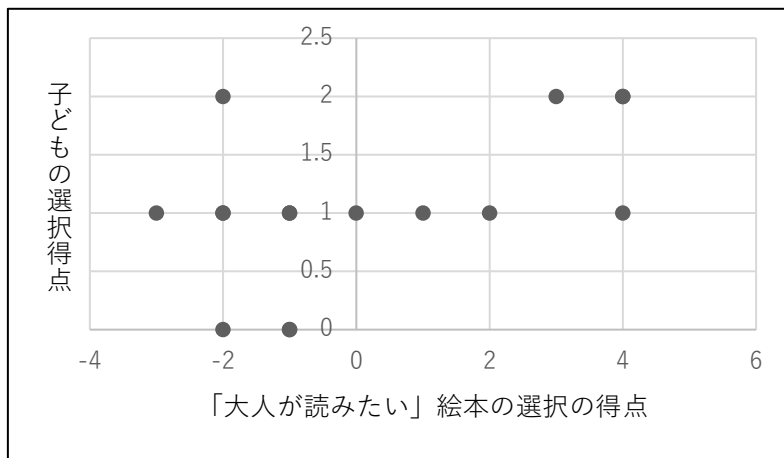


図 17 絵本①について子どもの選択と「自分（大人）が読みたい」絵本選択の得点化

絵本①について、子どもの選択と「大人が読みたい」絵本選択の得点化したものを図 17 に示す。二つの得点の間には、強い正の相関がある ($r=0.51$)。

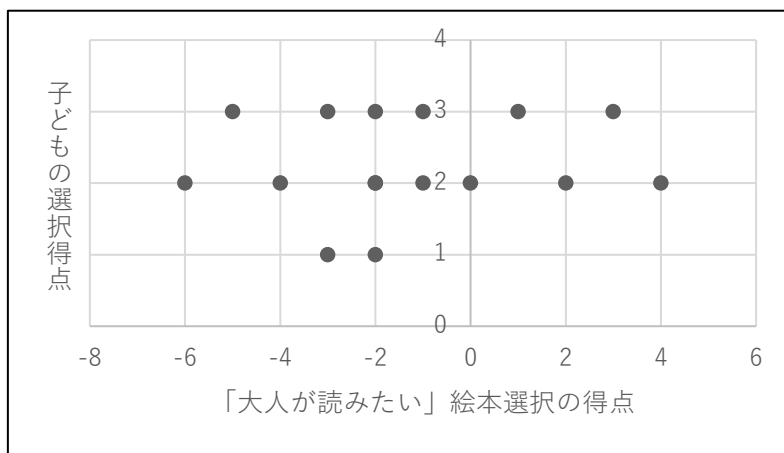


図 18 絵本②について子どもの選択と「大人が読みたい」絵本選択の得点化

絵本②について、子どもの選択と「大人が読みたい」絵本選択の得点化したものを図 18 に示す。二つの得点の間には、ほとんど相関がない ($r=0.11$)。

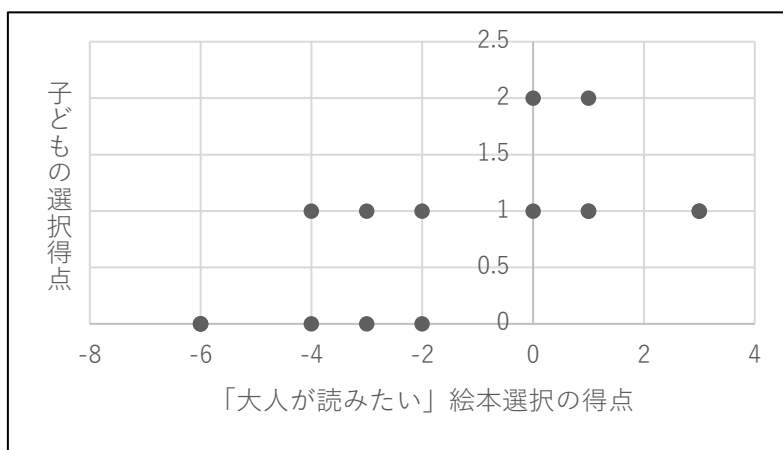


図 19 絵本③について子どもの選択と「大人が読みたい」絵本選択の得点化

絵本③について、子どもの選択と「大人が読みたい」絵本選択の得点化したものを図 19 に示す。二つの得点の間には、強い正の相関がある ($r=0.68$)。

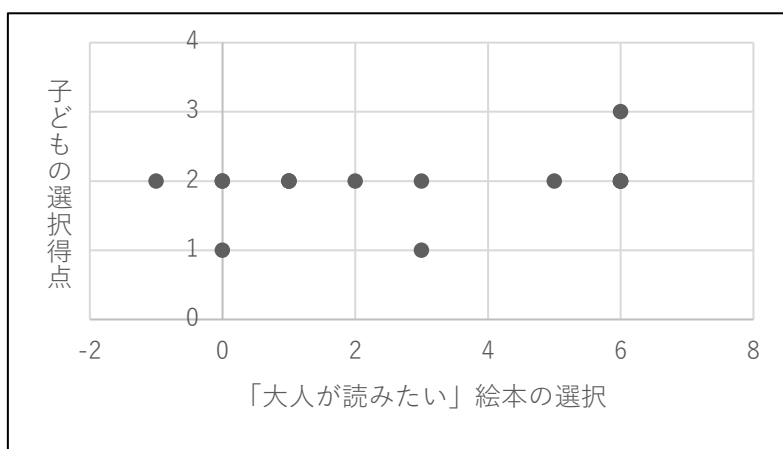


図 20 絵本④について子どもの選択と「大人が読みたい」絵本選択の得点化

絵本④について、子どもの選択と「大人が読みたい」絵本選択の得点化したものを図 20 に示す。二つの得点の間には、弱い正の相関がある ($r=0.33$)。

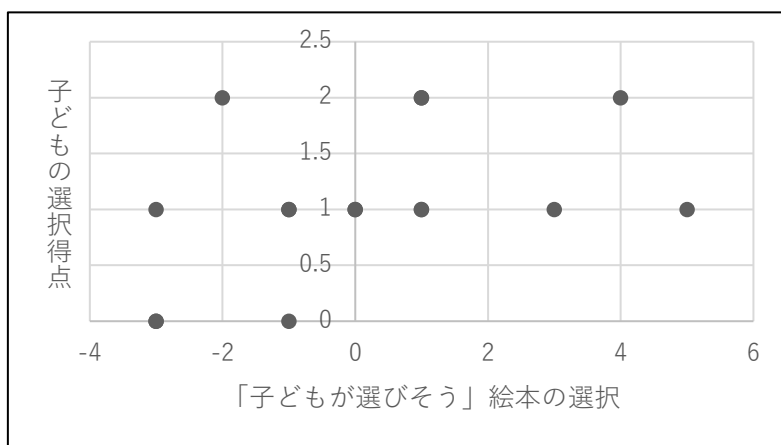


図 21 絵本①について子どもの選択と「子どもが選びそう」な絵本選択の得点化

絵本①について、子どもの選択と「子どもが選びそう」な絵本選択の得点化したものを図 21 に示す。二つの得点の間には、正の相関がある ($r=0.44$)。

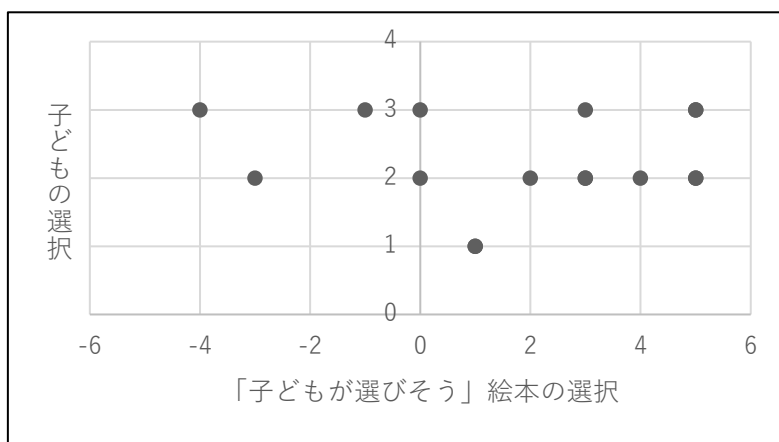


図 22 絵本②について子どもの選択と「子どもが選びそう」な絵本選択の得点化

絵本②について、子どもの選択と「子どもが選びそう」な絵本選択の得点化したものを図 22 に示す。二つの得点には、ほとんど相関がない ($r=-0.04$)。

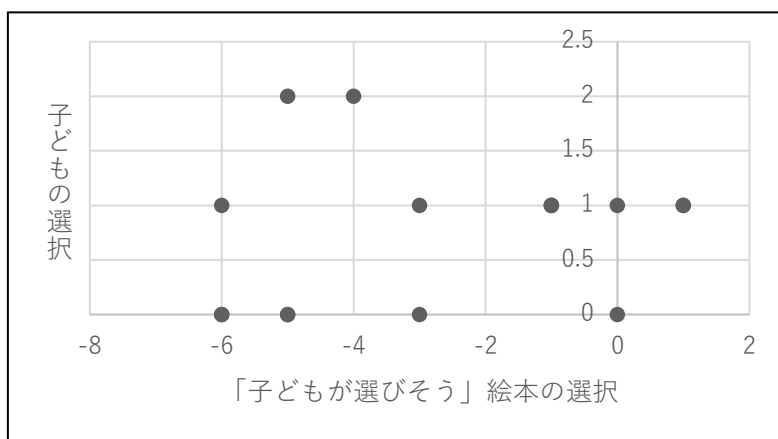


図 23 絵本③について子どもの選択と「子どもが選びそう」な絵本選択の得点化

絵本③について、子どもの選択と「子どもが選びそう」な絵本選択の得点化したものを図 23 に示す。二つの得点の間には、ほとんど相関がない ($r=0.19$)。

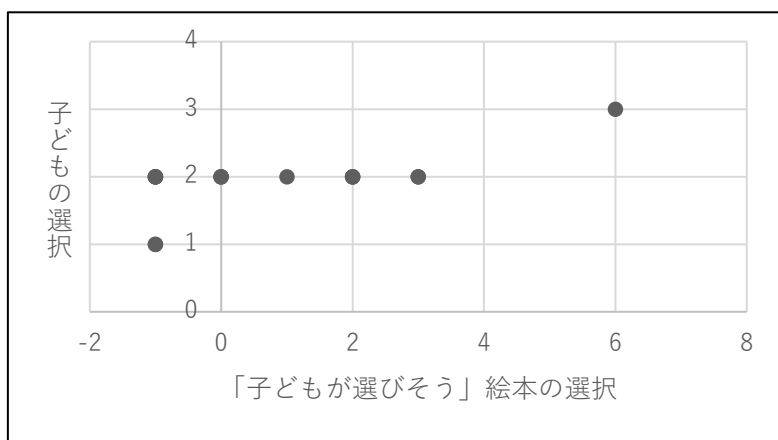


図 24 絵本④について子どもの選択と「子どもが選びそう」な絵本選択の得点化

絵本④について、子どもの選択と「子どもが選びそう」な絵本選択の得点化したものを図 24 に示す。二つの得点の間には、強い正の相関がある ($r=0.65$)。

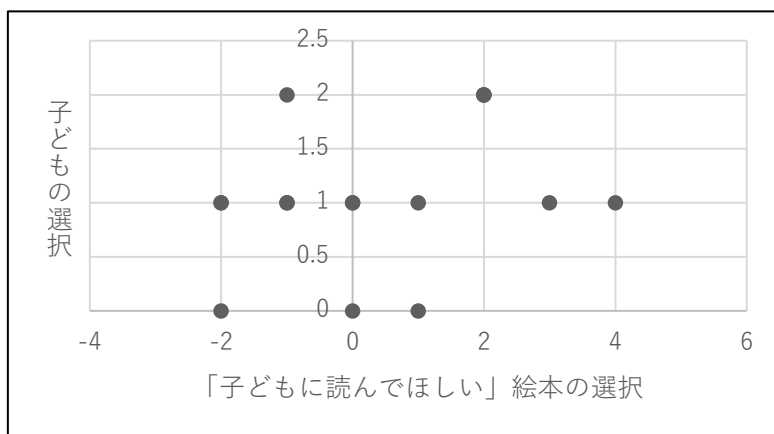


図 25 絵本①について子どもの選択と「子どもに読んでほしい」絵本選択の得点化

絵本①について、子どもの選択と「子どもに読んでほしい」絵本選択の得点化したものを図 25 に示す。二つの得点の間には、正の相関がある ($r=0.30$)。

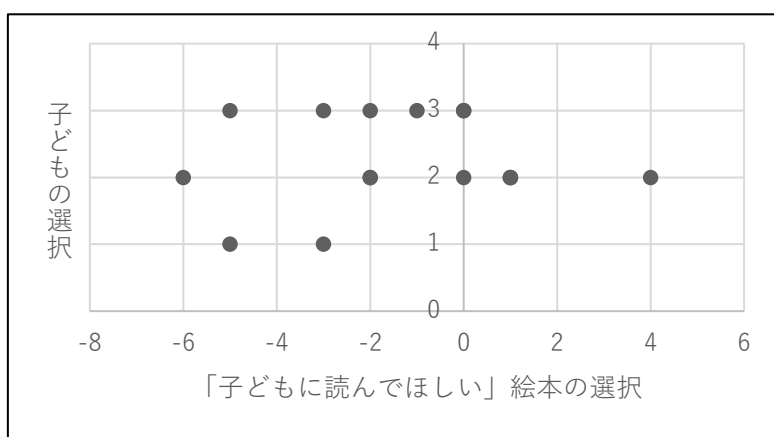


図 26 絵本②について子どもの選択と「子どもに読んでほしい」絵本選択の得点化

絵本②について、子どもの選択と「子どもに読んでほしい」絵本選択の得点化したものを図 26 に示す。二つの得点の間には、ほとんど相関がない ($r=0.09$)。

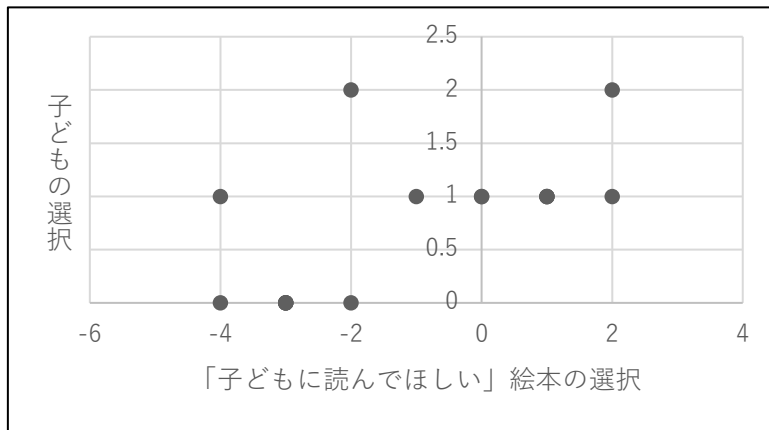


図 27 絵本③について子どもの選択と「子どもに読んでほしい」絵本選択の得点化

絵本③について、子どもの選択と「子どもに読んでほしい」絵本選択の得点化したものを図 27 に示す。二つの得点の間には、強い正の相関がある ($r=0.62$)。

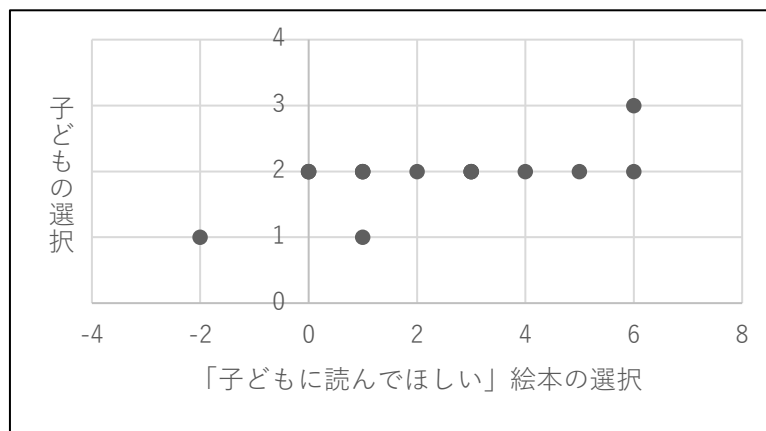


図 28 絵本④について子どもの選択と「子どもに読んでほしい」絵本選択の得点化

絵本④について、子どもの選択と「子どもに読んでほしい」絵本選択の得点化したものを図 28 に示す。二つの得点の間には、強い正の相関がある ($r=0.60$)。

(2)考察

・子どもの選択と「大人が読みたい」絵本選択について

図 17,18,19,20 より、絵本①、絵本③については子どもと大人（子どもの保護者）の選択が強く一致する傾向があり、絵本④については一致する傾向がある。一方で、絵本②については一致しない傾向があることがわかる。絵本②については、子どもの選択得点が比較的高い一方で、大人の実得点は低い傾向にあった。このことから、絵本②については、子どもと大人で嗜好ははっきりと異なっていることが明らかである。子ども向けに作られた絵本としてねらい通りとなった反面、大人の嗜好には沿わなかったことが示された。また絵本④については、子どもと大人ともに選択得点が高いことから、両者からの評価が比較的に高いことが示された。

・子どもの選択と「子どもが選びそう」な絵本選択について

図 21,22,23,24 より、絵本④については子どもと大人（子どもの保護者）の選択が強く一致する傾向があり、絵本①については一致する傾向がある。一方で、絵本②、絵本③については一致しない傾向があることがわかる。絵本②については、子どもの選択得点が高い一方で、大人の実得点はまばらであった。このことから、絵本②、絵本③については大人が想定していない子どもの嗜好が見られた。

・子どもの選択と「子どもに読んでほしい」絵本選択について

図 25,26,27,28 より、絵本③と絵本④については子どもと大人（子どもの保護者）の選択が強く一致する傾向があり。絵本①については一致する傾向にある。一方で、絵本②については一致しない傾向があることがわかる。ここで注目したいのが、絵本②についてである。子どもの選択得点は高い一方で、大人の実得点は総じて低い傾向にある。子どもが読みたい絵本に挙げる中で、絵本②は大人にとって「子どもに読んでほしい」絵本ではないことがわかる。

第六章 まとめ・今後の課題と展望

本研究では、子どもと大人の絵本選択について表紙絵という観点から、嗜好の差異について四種類の『シンデレラ』絵本を用いて調査を行った。

結果、子どもが「読みたい」と思う絵本と大人が「読みたい」絵本、「子どもに読んでほしい」絵本には大きな差異が生じていることが明らかになった。特に絵本②については、子どもからの選択が多い一方で、大人にとってはそれほど選択される傾向にないことが明らかとなった。その理由の一つとして、絵本②が一部の人々から「アニメ絵」「萌え絵」と評されること³⁰に関係すると考えられる。大人にとって、絵本②のイラストが絵本としてふさわしくないと判断される一方で、子どもにとっては、見慣れた親しみのあるイラストにあまり抵抗を示さなかったように推察する。親子における経験の差や文化の違いが、この結果に影響していると考えられる。絵本④については、子どもと大人ともに比較的选择される傾向にあり、両者の需要が一致していることがわかる。

この結果は、子どもの選択という観点で見ると、中澤ら（2005）が示したように子どもが「かわいいイメージの絵」を好む傾向にあることと一致している。さらに武田（1993）においても、子どもがアニメ・漫画風に描かれた絵本を好む傾向にあることも一致している。

さらに、子どもが「読みたい」と思う絵本と大人が「子どもが選びそう」な絵本について、親子間で対応させたデータを見ると、一致している親子もいれば、一致しない親子もいた。このことから、大人（保護者）が自分の子どもについて完全には理解できていないこともあるということが示唆された。本研究においては、差異の事実について明らかにしたが、この親子間の差異と親子における関係性との相関について、今後着目する必要があるだろう。

子どもが絵本を選択する上で、大人が介入する機会は多い。実際に絵本を購入する場合には、大人の目は必ず通らなければならない。その際に、子どもが手に取った絵本を見て、大人が子どもの意見（意思や欲求）を曲げてしまうことも十分に考えられる。もちろん、大人が子どもの発達を考慮し、絵本を選定し、「いい絵本」を与えたいという大人の意図もあるだろう。しかし、先にも述べたように、絵本は子どもの世界を広げる重要な役割を

³⁰ 河出書房新社公式ツイッター（@Kawade_shobo）より

担っている。子どもが表紙を見て「読んでみたい」と思う、そして手に取るという絵本の出会いに、大人の過剰な干渉はかえって子どもの絵本への関心の妨害につながると推察する。大人の一方的な価値観を押し付けることなく、子どもの関心にも沿った絵本選択について考える必要がある。

子どもが「読んでみたい」と思い、まず目に入るのは表紙である。表紙の絵に対する視覚的な選好、そしてその選好における大人との差異を検討したという点で本研究は今後の研究にとって有益なものであったと思われる。

研究方法の課題としては、大きく3点が挙げられる。

一つ目は、調査における刺激の選定についてである。今回の調査では表紙絵の印象が異なるものが多くあり、子どもにも馴染みのある絵本として『シンデレラ』を題材とした。しかし、何人かの（特に）男児にとってはあまり親しみがあるものではなかったようである。『シンデレラ』は女兒向けのもの、かわいいものは女の子のもの、という意識からか、回答を渋る様子も見られた。このことから、より男女ともに受け入れられる物語を採用することを検討していく必要がある。本調査で回答が無効となってしまった子どもの姿にも今後は着目していきたい。

二つ目に、調査対象者数が少ないことである。調査対象者数が少ないため、子どもと保護者を対応させたデータを通して見る、子どもと大人の選択の差異に関する傾向が捉えづらいことも問題点として挙げられる。本調査では、一つの園でのみの調査であったため、対象者が限られてしまった。そこで、複数の幼稚園や、支援センターなどにも協力を仰ぎ、データ数を増やすことで、より子どもと大人の選択の差というものが明らかになるだろう。

三つ目に、調査方法についての課題である。本調査は絵本の表紙という視覚的な情報のみから、子どもや大人がどういった絵本の選択をおこなうか、ということを検討することにあつた。今回の調査では、二つの表紙絵を子どもの前に示し、選択してもらうという形式をとっていた。しかし、実際の絵本を選択する場面では、何冊も絵本が並べられている中で絵本を目にし、その中で気に入った絵本を手に取り、そして読むという工程がある。そのため、図書館や保育現場など、実際の絵本を手にする場面を観察するという方法で調査をおこなうことで、より子どもと大人の生の姿を見ることができると推察する。

引用・参考文献一覧

- (1)浅井かおり・浅井拓久也「絵本選びについての一考察—4 歳児が絵本を探す様子に着目して—」東京未来大学研究紀要(14), 2020, pp. 183-188.
- (2)井上正明・小林利宣「日本における SD 法による研究分野とその形容詞対尺度構成の概観」, 教育心理学研究 33(3), 1985, pp. 253-260.
- (3)桑田てるみ「生徒の読書材選択行動および選択要因の特徴—有効な読書案内に向けての考察—」, 情報学会研究大会発表論文集, 2006, pp. 73-76.
- (4)桑原慎司・岸本絵里香・木谷康二・藤戸幹雄「子ども向け製品のデザインが親に与える印象に関する研究」, 日本デザイン学会研究発表大会概要集 61(0), 2014, p. 204.
- (5)国立青少年教育振興機構「絵本専門士とは」
<https://www.niye.go.jp/services/plan/ehon/senmon.html> (参照 2021-10-13 参照)
- (6)小坂田摩由「現代日本の『不思議のアリス』—挿絵に見られる「かわいらしさ」をめぐって」, お茶の水女子大学子ども学研究紀要(7), 2019, pp. 37-46.
- (7)是澤博昭・日高真吾『子どもたちの文化史：玩具にみる日本の近代』臨川書店, 2019.
- (8)小山祥子「昔話絵本の再話と描画に関する比較研究—「かちかちやま」の場合—」, 駒沢女子短期大学研究紀要(48), 2015, pp. 9-18.
- (9)鈴木美穂・行場次朗「絵画印象と言語印象の因子構造と感覚関連性の分析」, 心理学研究 73(6), 2003, pp. 518-523.
- (10)武田京子「絵のスタイルから昔話絵本を考える」岩手大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要(3), 1993, pp. 135-151.
- (11)千葉こころ「絵本・児童書の“萌え絵”論争——「子どもに悪影響」の声に、児童文学評論家が反論」excite ニュース, 2018-10-23.
https://www.excite.co.jp/news/article/Cyzowoman_201810_post_206184/?p=5
(参照 2021-10/10)
- (12)富田久枝・浜田彩「乳幼児における絵本の自発的選択傾向」, 千葉大学教育学部研究紀要 66(1), 2017, pp. 9-18.
- (13)中川素子『絵本の表現』朝倉書店, 2014.
- (14)中川素子・今井良朗・笹本純『絵本の視覚表現—そのひろがりとはたらき』日本エディタースクール出版部, 2001.

- (15)中澤潤・中道圭人・大澤紀代子・針谷洋美「絵本の絵が幼児の物語理解・想像力に及ぼす影響」,千葉大学教育学部研究紀要(53),2005,pp.193-202.
- (16)永田桂子『絵本という文化財に内在する機能』風間書房,2013.
- (17)中西一弘・覚道知津子「子どもが選択する絵本と大人が選択する絵本に関する一考察ー幼児絵本におけるマンガの手法の問題を中心にー」,大阪教育大学紀要 第V部門 40(2),1992,pp.223-238.
- (18)中村粧子『絵本の絵』福音館書店,2009.
- (19)西本望・佐藤恵・田原彩「玩具とのかかわりについてー玩具の選択・購入者との意識ー」,玩具福祉研究(8),2010,pp.31-40.
- (20)野口芳子「日本における「赤ずきん」の受容:平成期を中心に」 梅花女子大学心理こども学部紀要(10),2020,pp.1-12.
- (21)原邊祥弘「一対比較法を用いた一般的な感情価概念強度の測定ー深い感情による予備的検討ー」 帝塚山学院大学人間科学部研究年報(15),2013,pp.29-35.
- (22)BNN 編集部『こどもとデザイン』2015.
- 藤井勇市『子どもに絵本を届ける大人の心構え』NPO 法人「絵本で子育て」センター, 2014.
- (23)藤本朝巳『子どもと絵本』人文書院, 2015.
- (24)不破雷蔵「出版物の分類別売上推移をさぐる (2020 年公開版)」Yahoo!ニュース,2020-11-23.
- <https://news.yahoo.co.jp/byline/fuwaraizo/20201123-00208101/> (参照 2021-10-13)
- (25)ホリンデイル・ピーター 猪熊葉子(訳)『子どもと大人が会える場所一本のなかの「子ども性」を探る』柏書房, 2002.
- (26)星野ハナ・横山さやか・横山知弘・徳田克己「家庭における幼児と絵本のかかわりの実態Ⅱー子供の好きな童話・昔話、母親の熟知度などについてー」,日本保育学会大会研究論文集(51),1998,pp.772-773.
- (27)松村明・三省堂編修所(編)『大辞林』第四版 三省堂, 2019,p.305.
- (28)松本猛(編)『絵本学講座3 絵本と社会』朝倉書店,2015.
- (29)村上太郎「幼児における絵本の表紙選択の発達の検討: 幼児の好む表紙と大人が読

- んであげたい表紙は一致するか？」,九州女子大学紀要 56(1),2019,pp.49-59.
- (30)村上太郎「幼児の絵本選好と大人の絵本選択は一致するか？」,日本心理学回第 82 回大会,2018.
- (31)森川嘉一郎.「第 6 章 趣都の誕生 萌える都市アキハバラ」.宮台真司(監修)『オタク的想像力のリミット』.筑摩書房, 2014, p.216.
- (32)八木義仁「保育内容の研究(言葉)」における読み聞かせの選書理由の傾向 畿央大学紀要(15),2018,pp.5-10.
- (33)藪中征代「昔話絵本の絵が幼児の理解および作話に及ぼす影響」聖徳大学研究紀要 聖徳大学(23) 聖徳大学短期大学部(45),2012,pp.1-8.
- (34)藪中征代・吉田佐治子・村田光子「絵本を介した親子のやりとり(9)ー子どもの好きな絵本・親の好きな絵本ー」日本教育心理学会第 55 回総会 (2013)
- (35)余郷裕次「絵本とその読み聞かせの研究(2):『1 1 ぴきのねことあほうどり』の絵の分析を中心に」全国大学国語教育学会発表要旨集(107),2004,pp.10-16.
- (36)余郷裕次「絵本の色彩表現の研究:絵本『ぐりとぐら』の分析を中心に」全国国語教育学会発表要旨表(111),2006,pp.181-184.
- (37)若山育代・表裕未『絵本の挿絵が 4 歳児の共感性に及ぼす影響ー印象の異なる 2 種類の絵本を用いた読みきかせによる検討』, 富山大学人間発達科学部紀要 6(1),2011,pp.91-97.
- (38)渡部幹久・松村敦・宇陀則彦「絵本の読み聞かせにおける視線運動と表情から子どもの嗜好を抽出する試み」第 81 回全国大会講演論文集 2019(1),2019,pp.563-564.

謝辞

本研究を進めるにあたり、多くの方々にご指導ご鞭撻を賜りました。指導教官の西本望教授には、多大なご指導を賜りました。西本先生には大学3回生のゼミナールからお世話になっており、大学、大学院と続けて研究を進めてこれたのは先生のおかげです。心より厚く御礼申し上げます。

また、調査の実施にあたり、コロナ禍という状況においても、対策を考え、快くご協力いただいた武庫川女子大学附属幼稚園の先生方をはじめ、園児や保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

貴重な講義の時間を割き調査にご協力いただいた大和晴行先生、鶴宏史先生、金子健治先生、および武庫川女子大学文学部教育学科4回生、教育学部教育学科2,3回生の皆様に心より感謝申し上げます。

北口勝也教授には、調査における方法や分析について、繰り返しご助言とご指導をいただいたことに改めて感謝いたします。

武庫川女子大学大学院
文学研究科教育学専攻
2031981 瀧野 揚子

付録資料

| No | 読ませたい本 | 興味をもっている本 |
|----|--|--|
| 1 | 笑顔になる本・心にぐっとくる本 | <ul style="list-style-type: none"> ・黒川みつひろの恐竜シリーズ ・宮西達也の「おまえうまそうだな」シリーズ ・えのないえほん ・昆虫の出てくる本 ・わんぱくだんシリーズ ・かぶとむしのぶんちゃん等 |
| 2 | - | - |
| 3 | 私が好きなえほん、心にひびくえほん、ワクワクするえほん、大好きだよが伝わるえほん | は虫類の図鑑、野球などスポーツの本やまんが |
| 4 | - | - |
| 5 | 読ませたい本はありません。自分で読みたい本を選んでほしいと思っています。あえて申し上げるとすれば、トラウマになるような絵本はまだ今は避けたいと思います。 | <ul style="list-style-type: none"> ・じごくのそうべえ ・おひめさまになれるまほうのとびら ・どんぐりむらのぱんやさん |
| 6 | - | - |
| 7 | 子どもが読みたいもの | <ul style="list-style-type: none"> ・めいろ ・『だるまさんが』 |
| 8 | 小さな頃はネットや本屋さんで見た月齢や年齢のおすすめ本を買うことが多かったが、今は子どもの好きなシリーズや興味をもっていることの絵本などを買うことが多い。季節の絵本も。 | 昆虫やのりもの・探検など |
| 9 | <ul style="list-style-type: none"> ・色使いのキレイなもの ・楽しい気持ちになるもの ・昔話 | |
| 10 | 昔話 | しかけ絵本・料理絵本 |
| 11 | 子供の読みたいと思ったものを読ませてあげたい | 100かいだてのいえシリーズ |
| 12 | 子どもが楽しくて何度も読みたいと思う絵本 絵のキレイな絵本 | <ul style="list-style-type: none"> ・しろくまのパンツ ・こんたのおつかい |
| 13 | - | - |
| 14 | 日本昔話シリーズ | 人体のふしぎ |

| | | |
|----|---|--|
| | ・絵がきれいだったり楽しい絵など子供の記憶に残るもの | ・昆虫が出てくるお話（昆虫に興味があるので） |
| 15 | ・何度も読みたいと思うもの ・心があたたまるとお話し ・ちょっと意外な結末で記憶に残るもの | ・てぶくろをかいに ・ルドルフとイッパイアッテナ ・よるくま |
| 16 | - | - |
| 17 | 子どもがすきなどうぶつやたべものが出てきて、親子でたのしく読めるような絵本。 絵がかわいくて、文章が長すぎないわかりやすい絵本。 | ・くすのきだんちのシリーズ ・さんまいのおふたなど |
| 18 | - | - |
| 19 | | ・ディズニープリンセス ・童話 |
| 20 | ・絵がかわいかったり、楽しそうな感じがするもの ・文字が多すぎると飽きてしまいそうなので、適度な長さのお話のもの | ・ゲームのキャラクター図鑑 ・100 かいたてシリーズ ・童話や昔話 |
| 21 | - | - |
| 22 | | わんぱくだん ・図鑑 |
| 23 | 語彙の多いもの想像性豊かなもの。 子どもが読みたいと思うもの。 | ・わんぱくだんシリーズ ・なぞなぞ ・マンガ（絵本ではないですが…） |
| 24 | 日本の昔話、名作、神話 世界の昔話、名作、童話、伝記 | ・こまったさんのスパゲティ ・おばけのアッチとコロッケとうさん ・十二支のはじまり |
| 25 | | |
| 26 | 子供自身がおもしろそう、楽しそうに興味をもった絵本 | 小学生の娘は内容が夢を叶える物語だったり主人公が成長する物語など 息子は恐竜や動物が出てくる絵本 |
| 27 | 社会のルールやマナー、エチケットが学べる絵本 | どんぐり園、ディズニー |
| 28 | 思いやりをはぐくめるような内容 | ・かっこわるいよだいふくくん（6歳） ・フラッシュメモリーのひみつ（10歳） ・クリエイターパソコンのひみつ |
| 29 | ワクワクするような絵本 | |

- | | | |
|----|--|-------------------------------------|
| 30 | 自分で考え、想像力が育まれる様な絵本 何度も読みたくなる絵本 言葉がきれいな絵本や、昔からある物語の | カタカナを勉強中なので、カタカナがたくさんある絵本に興味をもっています |
| 31 | 絵本を 読ませたいです。 | |
| 32 | いろいろなジャンルの本 | ずかん・伝記 |
-

令和3年 9月 6日

武庫川女子大学附属幼稚園
保護者の皆様へ

絵本に関するアンケート調査のご協力をお願い

私は現在、修士学位請求論文を作成するにあたり、子どもやその保護者が絵本選びを行う際、最初に目にする視覚情報としての「表紙」に着目し、研究に取り組んでいます。本調査では、子どもと大人の絵本の表紙に対する印象を測定し、その差異を検討することを目的としています。

そしてこの度、武庫川女大学附属幼稚園に通われているお子様とその保護者様にこの調査にご協力をいただきたくお願い申し上げます。お子様の調査は、幼稚園の保育時間内に実施させていただきます。調査内容につきましては、別紙をご覧ください。

本調査においては、調査への協力は自由意思であり、その同意の諾否にかかわらず、何ら不利益を被ることはありません。得られた情報は本研究とその報告の目的で利用させていただきます。またお子様とその保護者様を結びつけて分析を行うことを目的としているため、調査時にはそれぞれに番号の割り当てを行いますので、個人情報の流出などの心配はございません。研究の報告・公表について平均値などで分析するため、調査協力者が特定されることはありません。

コロナ感染対策としましては、お子様と調査者間においてパーテーションを設置するとともに、調査者の調査前2週間の検温結果を幼稚園に提出いたします。

何卒ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

武庫川女子大学大学院
文学研究科教育学専攻2年 瀧野揚子
指導教授 西本望

メールアドレス：2031981@mwu.jp
電話番号：0798-31-0327（西本呼）

令和3年9月6日

武庫川女子大学附属幼稚園
保護者の皆様へ

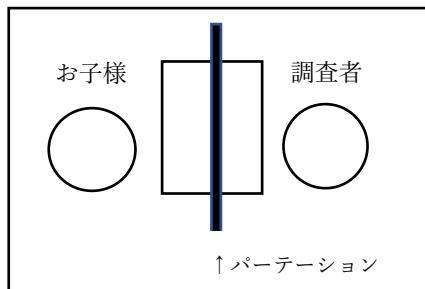
絵本に関する調査についてのご説明

本調査では、子どもと大人の絵本の表紙に対する印象を測定し、その差異を検討することを目的としています。異なる印象をもった四種類の絵本『シンデレラ』の表紙を用いて、お子様と保護者様にそれぞれ調査を行います。

【お子様を対象とした調査】

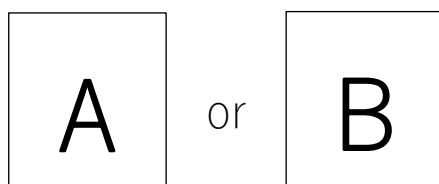
お子様を対象とした調査では、四種類の絵本の表紙を拡大コピーし、パネルにしたものを使用します。四つのうちから二つをお見せし、どちらを読みたいと思うか、またその理由などを尋ねます。その行程を六通り行います。

〈調査手順〉



左図のように、可能な限りお子様との接触を避けるため、パーテーションを設置した机を挟んで調査を行います

〈調査方法〉



(質問) どちらの絵本を読みたいですか。
なぜこちら(選んだ方)を選びましたか。

【保護者の皆様を対象とした調査】

保護者様を対象とした調査では、アンケート用紙を用います。異なる印象をもった四種類の絵本の表紙に関して、それぞれ三つの質問に答えていただくことになります。担任の先生にご提出いただき、回収いたします。なお、調査は9月に実施させていただきます。

絵本の表紙絵の印象に関する調査

本調査は、絵本の表紙に描かれた絵の印象について検討することを目的としています。調査への協力は自由意思であり、その同意の諾否にかかわらず、何ら不利益を被ることはありません。無記名でお答えください。回答にあたって、答えたくないところは答えなくて構いません。得られた情報は本研究とその報告の目的で利用致します。研究の報告・公表については、調査協力者が特定されないように致します。ご協力いただければ幸いです。

武庫川女子大学大学院文学研究科教育学専攻2年 瀧野 揚子
指導教授 西本望

メールアドレス：2031981@mwu.jp
電話番号：0798-31-0327（西本呼）

1. あなたの学年をお答えください。

大学（ ）年

2. あなたのコースに○をつけてください。

小学校教育コース ()
小学校・中学校教育コース ()
幼児教育・保育コース ()
国際教育コース ()

(記入例)

| | | | | |
|----------|---------|----------------------------------|---------|----------|
| 非常に当てはまる | やや当てはまる | どちらでもない | やや当てはまる | 非常に当てはまる |
| 快い | | <input checked="" type="radio"/> | | 不快 |

「やや」「快い」と感じた場合は、ここに○印をつけてください

3. 下図の絵本の表紙絵を見ながら、各項目について感じるままに○をつけてください。



非常に当てはまる やや当てはまる どちらでもない やや当てはまる 非常に当てはまる

快い |—————|—————|—————|—————| 不快

かわいらしい |—————|—————|—————|—————| にくらしい

明るい |—————|—————|—————|—————| 暗い

美しい |—————|—————|—————|—————| みにくい

きれい |—————|—————|—————|—————| きたない

あたたかい |—————|—————|—————|—————| つめたい

陽気な |—————|—————|—————|—————| 陰気な

親しみやすい |—————|—————|—————|—————| 親しみにくい

やさしい |—————|—————|—————|—————| おそろしい

華やか |—————|—————|—————|—————| わびしい

非常に当てはまる やや当てはまる どちらでもない やや当てはまる 非常に当てはまる

穏やかな | | | | 荒々しい

新しい | | | | 古い

大人っぽい | | | | 子どもっぽい

騒がしい | | | | ものしずかな

活発な | | | | 落ち着いた

濃い | | | | 薄い

くどい | | | | あっさりした

派手な | | | | 地味な

動的 | | | | 静的

力強い | | | | 弱々しい

重厚な | | | | 軽薄な

深みのある | | | | うわべだけ

迫力のある | | | | ものたりない

現実的な | | | | 非現実的な

むずかしい | | | | わかりやすい

複雑な | | | | 単純な

はっきりした | | | | 不明瞭な

4. 下図の絵本の表紙絵を見ながら、各項目について感じるままに○をつけてください。



非常に当てはまる やや当てはまる どちらでもない やや当てはまる 非常に当てはまる

快い |—————| 不快

かわいらしい |—————| にくらしい

明るい |—————| 暗い

美しい |—————| みにくい

きれい |—————| きたない

あたたかい |—————| つめたい

陽気な |—————| 陰気な

親しみやすい |—————| 親しみにくい

やさしい |—————| おそろしい

華やか |—————| わびしい

非常に当てはまる やや当てはまる どちらでもない やや当てはまる 非常に当てはまる

穏やかな | | | | 荒々しい

新しい | | | | 古い

大人っぽい | | | | 子どもっぽい

騒がしい | | | | ものしずかな

活発な | | | | 落ち着いた

濃い | | | | 薄い

くどい | | | | あっさりした

派手な | | | | 地味な

動的 | | | | 静的

力強い | | | | 弱々しい

重厚な | | | | 軽薄な

深みのある | | | | うわべだけ

迫力のある | | | | ものたりない

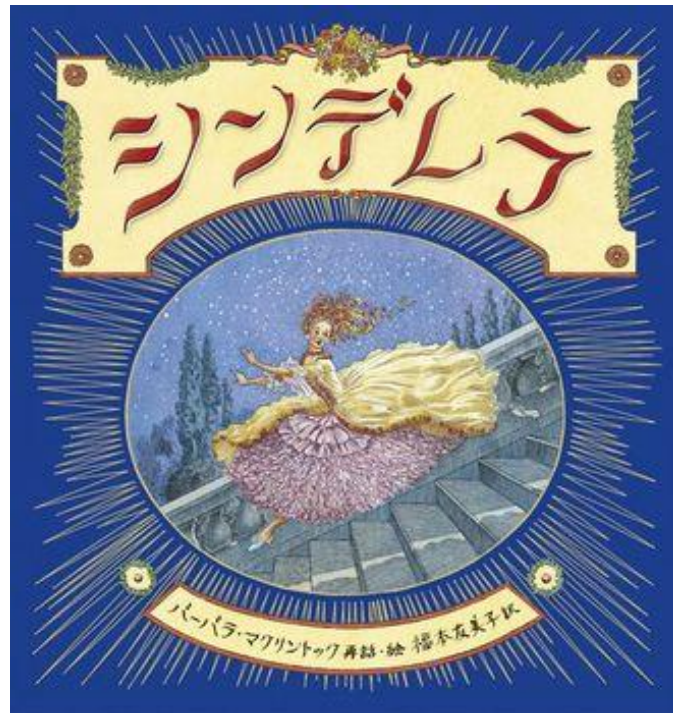
現実的な | | | | 非現実的な

むずかしい | | | | わかりやすい

複雑な | | | | 単純な

はっきりした | | | | 不明瞭な

5. 下図の絵本の表紙絵を見ながら、各項目について感じるままに○をつけてください。



非常に当てはまる やや当てはまる どちらでもない やや当てはまる 非常に当てはまる

快い |—————|—————|—————|—————| 不快

かわいらしい |—————|—————|—————|—————| にくらしい

明るい |—————|—————|—————|—————| 暗い

美しい |—————|—————|—————|—————| みにくい

きれい |—————|—————|—————|—————| きたない

あたたかい |—————|—————|—————|—————| つめたい

陽気な |—————|—————|—————|—————| 陰気な

親しみやすい |—————|—————|—————|—————| 親しみにくい

やさしい |—————|—————|—————|—————| おそろしい

華やか |—————|—————|—————|—————| わびしい

非常に当てはまる やや当てはまる どちらでもない やや当てはまる 非常に当てはまる

穏やかな |-----|-----|-----|-----| 荒々しい

新しい |-----|-----|-----|-----| 古い

大人っぽい |-----|-----|-----|-----| 子どもっぽい

騒がしい |-----|-----|-----|-----| ものしずかな

活発な |-----|-----|-----|-----| 落ち着いた

濃い |-----|-----|-----|-----| 薄い

くどい |-----|-----|-----|-----| あっさりした

派手な |-----|-----|-----|-----| 地味な

動的 |-----|-----|-----|-----| 静的

力強い |-----|-----|-----|-----| 弱々しい

重厚な |-----|-----|-----|-----| 軽薄な

深みのある |-----|-----|-----|-----| うわべだけ

迫力のある |-----|-----|-----|-----| ものたりない

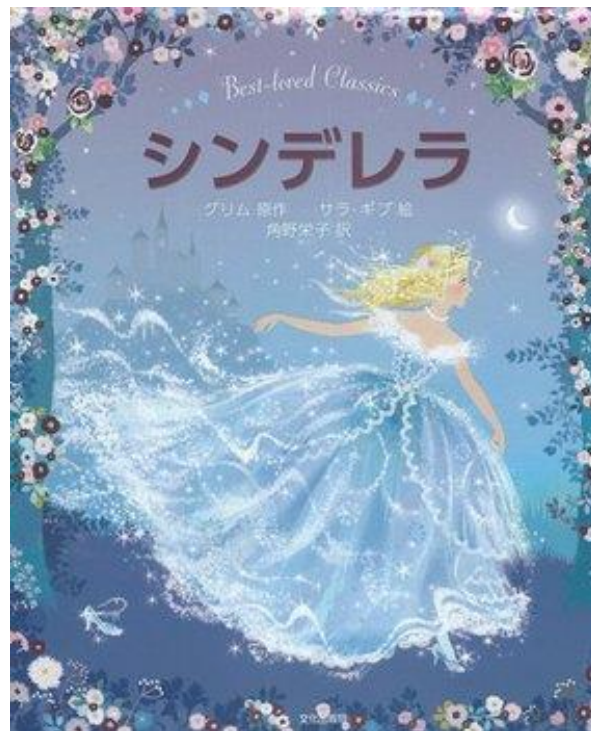
現実的な |-----|-----|-----|-----| 非現実的な

むずかしい |-----|-----|-----|-----| わかりやすい

複雑な |-----|-----|-----|-----| 単純な

はっきりした |-----|-----|-----|-----| 不明瞭な

6. 下図の絵本の表紙絵を見ながら、各項目について感じるままに○をつけてください。



非常に当てはまる やや当てはまる どちらでもない やや当てはまる 非常に当てはまる

快い |—————|—————|—————|—————| 不快

かわいらしい |—————|—————|—————|—————| にくらしい

明るい |—————|—————|—————|—————| 暗い

美しい |—————|—————|—————|—————| みにくい

きれい |—————|—————|—————|—————| きたない

あたたかい |—————|—————|—————|—————| つめたい

陽気な |—————|—————|—————|—————| 陰気な

親しみやすい |—————|—————|—————|—————| 親しみにくい

やさしい |—————|—————|—————|—————| おそろしい

華やか |—————|—————|—————|—————| わびしい

非常に当てはまる やや当てはまる どちらでもない やや当てはまる 非常に当てはまる

穏やかな | | | | 荒々しい

新しい | | | | 古い

大人っぽい | | | | 子どもっぽい

騒がしい | | | | ものしずかな

活発な | | | | 落ち着いた

濃い | | | | 薄い

くどい | | | | あっさりした

派手な | | | | 地味な

動的 | | | | 静的

力強い | | | | 弱々しい

重厚な | | | | 軽薄な

深みのある | | | | うわべだけ

迫力のある | | | | ものたりない

現実的な | | | | 非現実的な

むずかしい | | | | わかりやすい

複雑な | | | | 単純な

はっきりした | | | | 不明瞭な

ご協力いただきありがとうございました。

令和3年9月9日

武庫川女子大学附属幼稚園
保護者様

絵本の表紙絵に関する調査

本調査は、絵本の表紙に描かれた絵に対する意識について検討することを目的としています。調査への協力は自由意思であり、その同意の諾否にかかわらず、何ら不利益を被ることはありません。回答にあたって、答えたくないところは答えなくて構いません。得られた情報は本研究とその報告の目的で利用致します。

調査時には番号や記号を用いて、お子様と保護者様を結びつけます。研究の報告・公表については、個人情報を匿名加工することによって、調査協力者が特定されないように致します。ご協力いただければ幸いです。

※お手数ですが、9月17日までに幼稚園までご提出いただきますようお願い致します。

武庫川女子大学大学院文学研究科教育学専攻2年 瀧野 揚子
指導教授 西本望

メールアドレス：2031981@mwu.jp
電話番号：0798-31-0327（西本呼）

〈回答にあたっての記入例〉

(問)A と B のどちらが好みですか。

| | | | | | |
|----------|---------|----------------------------------|---------|----------|---|
| 非常に当てはまる | やや当てはまる | どちらでもない | やや当てはまる | 非常に当てはまる | |
| A | | <input checked="" type="radio"/> | | | B |

「A」の方が「やや当てはまる」と感じた場合は、ここ（縦線があるところ）に○印をつけてください。

1. 年齢についてお尋ねします。

() 歳

2. 性別についてお尋ねします。

☐男性 ☐女性 ☐その他 ☐無回答

3. お子様が何人いらっしゃいますか。それぞれのお子様の性別をお答えください。なお、現在妊娠中のお子様は含みません。

お子様の人数 () 人

| 年齢 | 性別 |
|------------------|----------------|
| () 歳 | () |
| () 歳 | () |
| () 歳 | () |
| () 歳 | () |
| () 歳 | () |
| () 歳 | () |
| () 歳 | () |

4. お子様にどのような絵本を読ませたいですか。自由に記入してください。

5. 現在、お子様が興味をもっている絵本があれば記入してください。

6. 下に示した二つの絵本の表紙を見て、以下の質問にお答えください。



絵本①



絵本②

(1) あなたはどちらの絵本を読みたいと思いますか。

絵本① |—————|—————|—————|—————| 絵本②

(2) お子様が選びそうなのはどちらだと思いますか。

絵本① |—————|—————|—————|—————| 絵本②

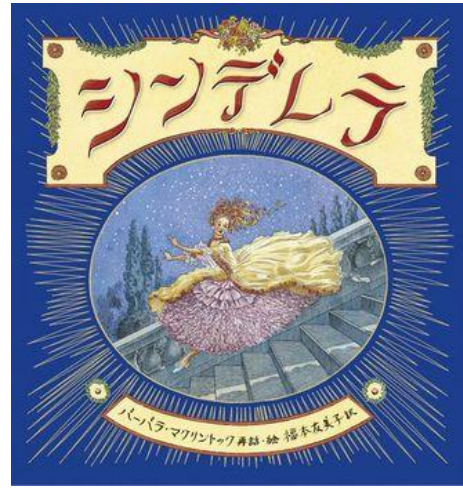
(3) お子様に読んでほしいのはどちらの絵本ですか。

絵本① |—————|—————|—————|—————| 絵本②

7. 下に示した二つの絵本の表紙を見て、以下の質問にお答えください。



絵本②



絵本③

(1) あなたはどちらの絵本を読みたいと思いますか。

絵本② |-----|-----|-----|-----| 絵本③

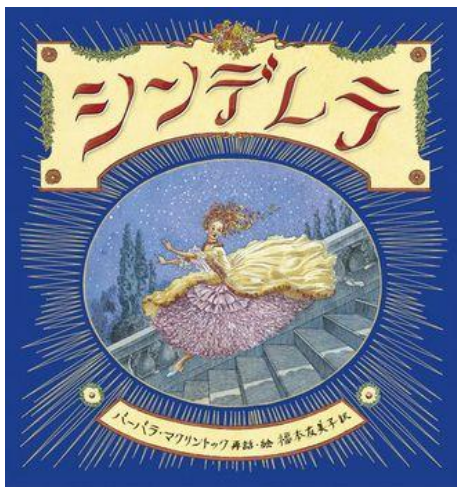
(2) お子様が選びそうなのはどちらだと思いますか。

絵本② |-----|-----|-----|-----| 絵本③

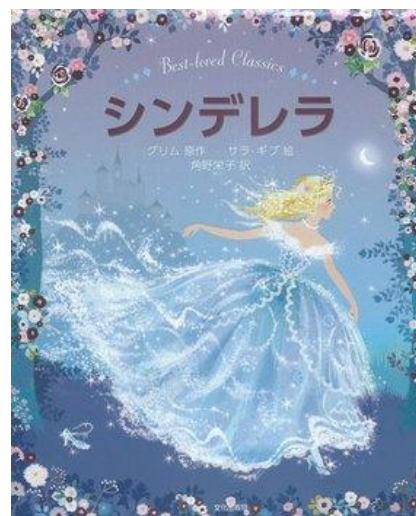
(3) お子様に読んでほしいのはどちらの絵本ですか。

絵本② |-----|-----|-----|-----| 絵本③

8. 下に示した二つの絵本の表紙を見て、以下の質問にお答えください。



絵本③



絵本④

(1) あなたはどちらの絵本を読みたいと思いますか。

絵本③ |—————|—————|—————|—————| 絵本④

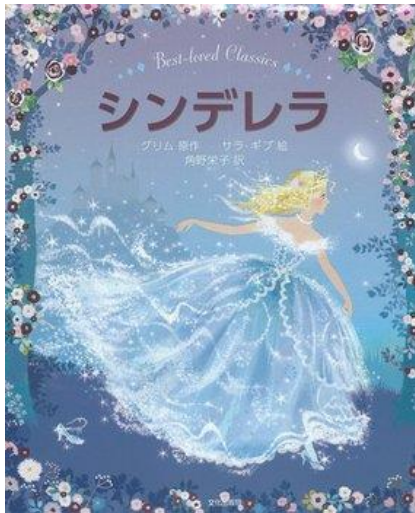
(2) お子様が選びそうなのはどちらだと思いますか。

絵本③ |—————|—————|—————|—————| 絵本④

(3) お子様に読んでほしいのはどちらの絵本ですか。

絵本③ |—————|—————|—————|—————| 絵本④

9. 下に示した二つの絵本の表紙を見て、以下の質問にお答えください。



絵本④



絵本①

(1) あなたはどちらの絵本を読みたいと思いますか。

絵本④ |—————|—————|—————|—————| 絵本①

(2) お子様が選びそうなのはどちらだと思いますか。

絵本④ |—————|—————|—————|—————| 絵本①

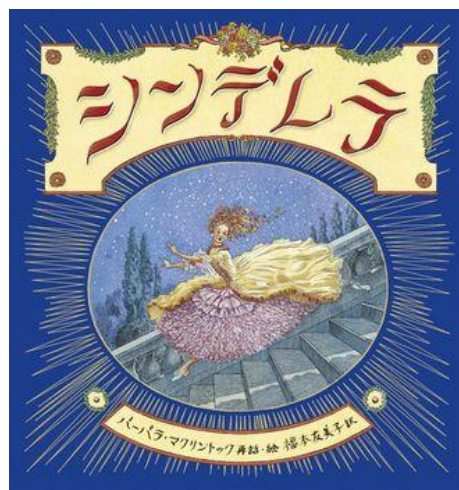
(3) お子様に読んでほしいのはどちらの絵本ですか。

絵本④ |—————|—————|—————|—————| 絵本①

10. 下に示した二つの絵本の表紙を見て、以下の質問にお答えください。



絵本①



絵本③

(4) あなたはどちらの絵本を読みたいと思いますか。

絵本① | | | | | 絵本③

(5) お子様が選びそうなのはどちらだと思いますか。

絵本① | | | | | 絵本③

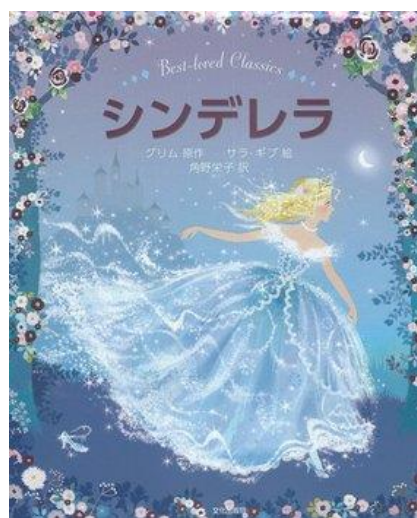
(6) お子様に読んでほしいのはどちらの絵本ですか。

絵本① | | | | | 絵本③

1 1. 下に示した二つの絵本の表紙を見て、以下の質問にお答えください。



絵本②



絵本④

(1) あなたはどちらの絵本を読みたいと思いますか。

絵本② |—————|—————|—————|—————| 絵本④

(2) お子様を選びそうなのはどちらだと思いますか。

絵本② |—————|—————|—————|—————| 絵本④

(3) お子様に読んでほしいのはどちらの絵本ですか。

絵本② |—————|—————|—————|—————| 絵本④

アンケートのご協力、ありがとうございました。